

BZ-8-06



\*1200901600205\*

BZ  
8  
06



古今叢書第四卷  
各國議院法規  
日本之部

Kodak Gray Scale



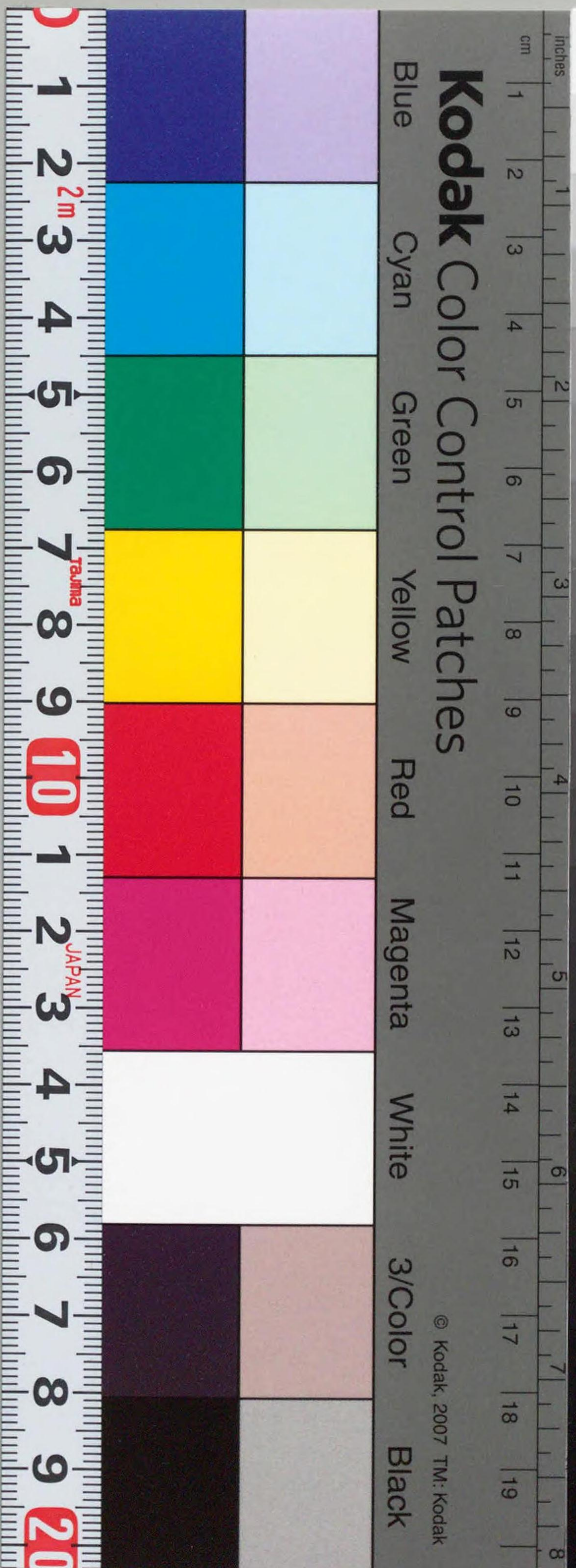
© Kodak, 2007 TM: Kodak

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

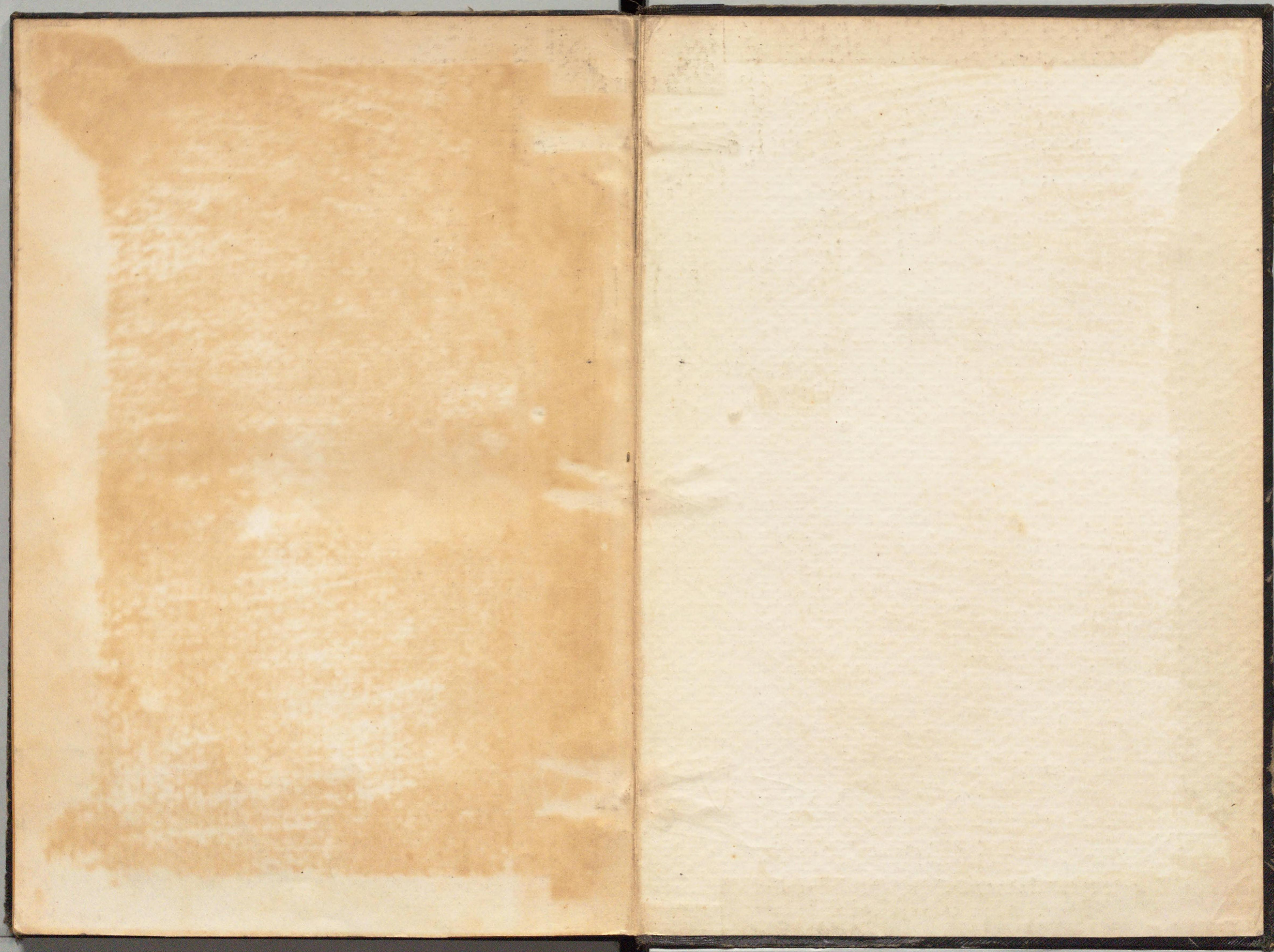
Kodak Color Control Patches

Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black

© Kodak, 2007 TM: Kodak









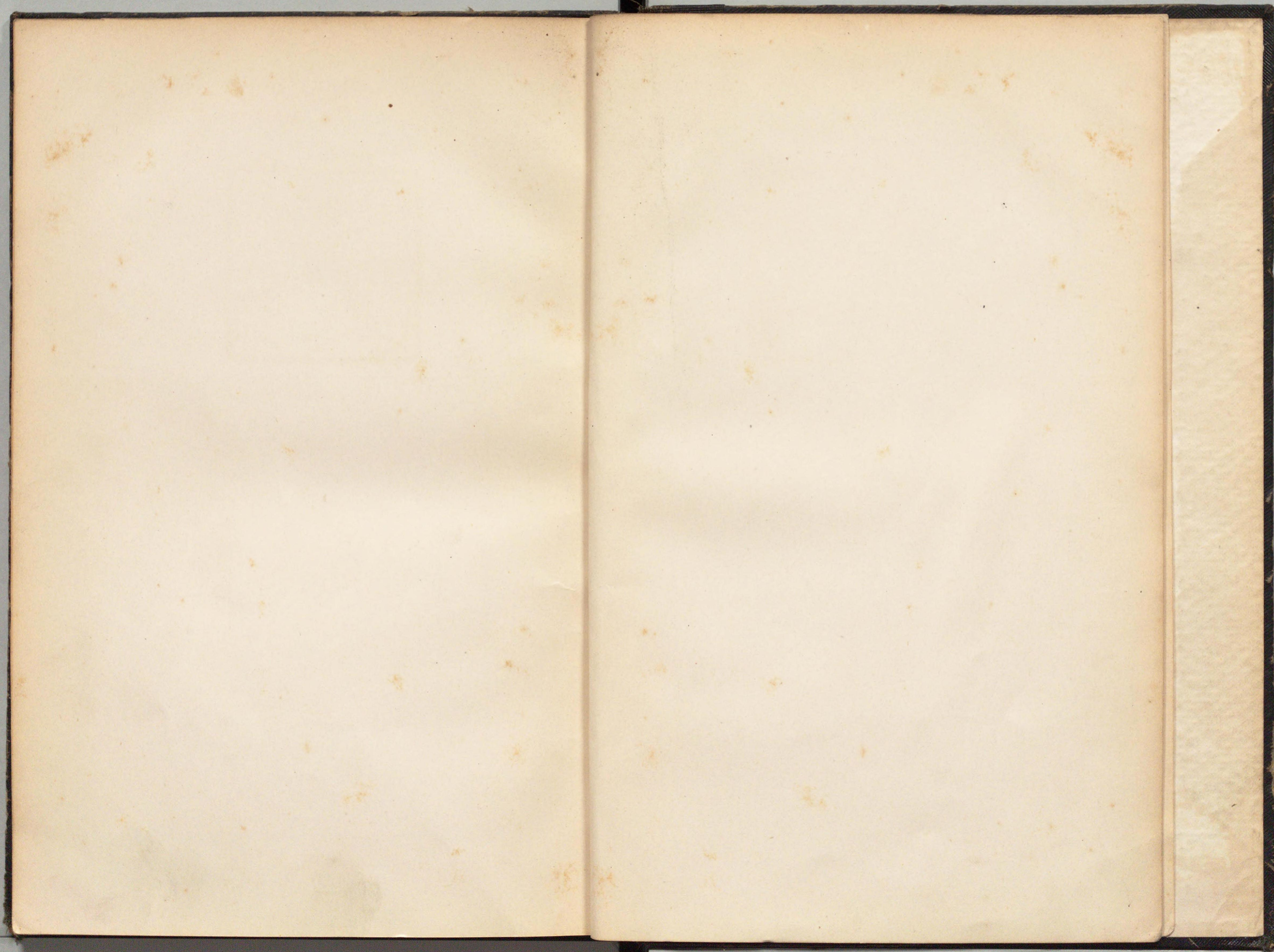
14.3  
75

參考叢書第四編

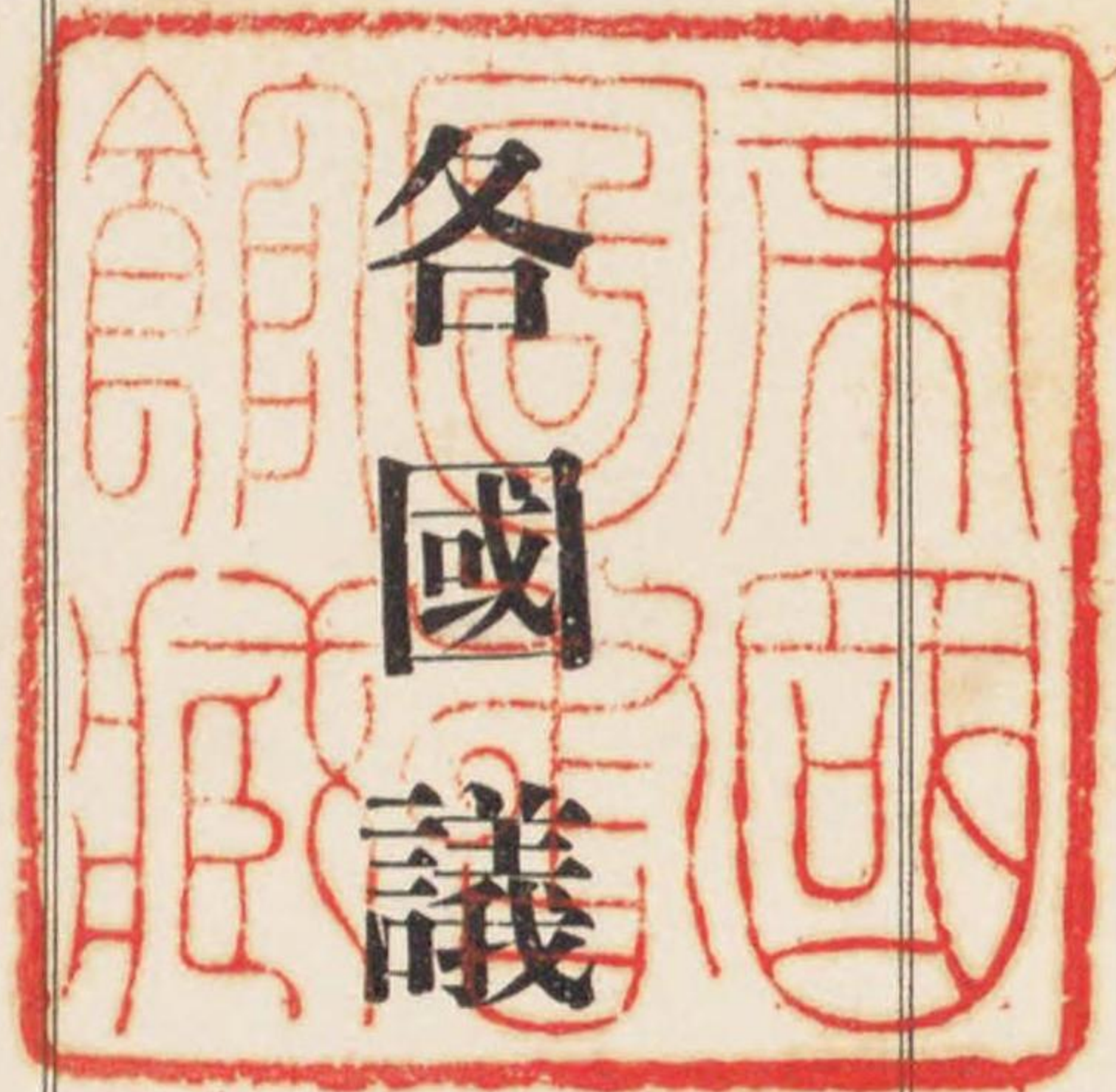
各國議院法規

(日本ノ部)









各國議院

院法規

(日本ノ部)

大正  
14. 1. 12  
寄贈

參考叢書第四編

〃 寄贈本

衆議院事務局







帝國憲法ハ明治二十二年紀元ノ佳節ヲ以テ發布セラレ同時ニ議院  
 法ノ公布ヲ見(法律第二號)又衆議院規則ハ初次衆議院之ヲ議決シタリ爾  
 來既ニ三十有餘年ヲ閱シ其ノ間議院法及衆議院規則ニ數次ノ改正  
 ヲ施シタリト雖今ニ於テ兩法規ヲ通覽スルニ或ハ全ク適用ヲ見サ  
 ルモノアリ或ハ時代ノ趨勢ニ副ハサルモノアリ爲ニ議院ノ典例ヲ  
 以テ之ヲ補ヒ其ノ運用ヲ完カラシムルモノナキニ非ス此ヲ以テ輓  
 近衆議院議員選舉法改正ノ議ニ伴ヒ自ラ議院法規改正ノ議ヲ生シ  
 之ヲシテ時勢ニ順應セシムルノ必要ヲ論スルノ聲漸ク高キヲ加フ  
 依テ茲ニ議院ニ關スル本邦ノ現行法規竝ニ其ノ改正ノ沿革ヲ蒐錄  
 シ本院參考叢書第四編ノ初端トシテ先ツ之ヲ印刷ニ付シ次テ諸外



國ノ議院法規ニ及ホシ翻譯成ルニ隨ヒ順ヲ逐ヒ之ヲ上梓シ以テ他  
日現行法規改正ノ資ニ供セムトス

大正十三年十一月

衆議院事務局

二

# 各國議院法規

## 目次

### 大日本帝國憲法

第一章	天皇	一
第二章	臣民權利義務	三
第三章	帝國議會	五
第四章	國務大臣及樞密顧問	九
第五章	司法	九
第六章	會計	一〇
第七章	補則	一三

目次

一



議院法

第一章 帝國議會ノ召集成立及開會 ..... 一五

第二章 議長書記官及經費 ..... 一六

第三章 議長副議長及議員歲費 ..... 一八

第四章 委員 ..... 一九

第五章 會議 ..... 二〇

第六章 停會閉會 ..... 二二

第七章 祕密會議 ..... 二三

第八章 豫算案ノ議定 ..... 二三

第九章 國務大臣及政府委員 ..... 二四

第十章 質問 ..... 二五

第十一章 上奏及建議 ..... 二六

第十二章 兩議院關係 ..... 二七

第十三章 請願 ..... 二九

第十四章 議院卜人民及官廳地方議會卜ノ關係 ..... 三一

第十五章 退職及議員資格ノ異議 ..... 三二

第十六章 請假辭職及補闕 ..... 三三

第十七章 紀律及警察 ..... 三四

第十八章 懲罰 ..... 三五

衆議院規則

第一章 成立 ..... 三九

第二章 委員 ..... 四三



第一節	通則	四三
第二節	全院委員	四四
第三節	常任委員	四六
第四節	特別委員	五〇
第三章	議員資格審查	五一
第四章	開議散會及延會	五二
第五章	議事日程	五四
第六章	議事	五五
第一節	發議及動議	五五
第二節	讀會	五六
第三節	討論	五八
第四節	修正	六二
第五節	表決	六三

第六節	豫算會議	六五
第七章	議事錄決議錄及速記錄	六五
第一節	議事錄	六五
第二節	速記錄	六七
第八章	質問	六八
第九章	上奏建議及議案ノ奏上	六八
第十章	請願	六九
第十一章	請暇及辭職	七二
第一節	請暇	七二
第二節	辭職	七三
第十二章	警察及秩序	七四
第一節	警察	七四



第二節 議場内ノ秩序	七四
第十三章 傍聽	七六
第十四章 懲罰	七八
第十五章 貴族院ニ對スル關係	八一
法律ノ制定ニ關スル請願取扱規則	八二
投票ニ關スル規則	八三
兩院協議會規程	八四
議院法改正案沿革	八七
衆議院規則改正ノ沿革	一一一

# 各國議院法規

## 大日本帝國憲法



### 第一章 天皇

- 第一條 大日本帝國ハ萬世一系ノ天皇之ヲ統治ス
- 第二條 皇位ハ皇室典範ノ定ムル所ニ依リ皇男子孫之ヲ繼承ス
- 第三條 天皇ハ神聖ニシテ侵スヘカラス
- 第四條 天皇ハ國ノ元首ニシテ統治權ヲ總攬シ此ノ憲法ノ條規ニ依リ之ヲ行フ
- 第五條 天皇ハ帝國議會ノ協贊ヲ以テ立法權ヲ行フ
- 第六條 天皇ハ法律ヲ裁可シ其ノ公布及執行ヲ命ス



第七條 天皇ハ帝國議會ヲ召集シ其ノ開會閉會停會及衆議院ノ解散ヲ命ス

第八條 天皇ハ公共ノ安全ヲ保持シ又ハ其ノ災厄ヲ避クル爲緊急ノ必要ニ由リ帝國

議會閉會ノ場合ニ於テ法律ニ代ルヘキ勅令ヲ發ス

此ノ勅令ハ次ノ會期ニ於テ帝國議會ニ提出スヘシ若議會ニ於テ承諾セサルトキハ

政府ハ將來ニ向テ其ノ効力ヲ失フコトヲ公布スヘシ

第九條 天皇ハ法律ヲ執行スル爲ニ又ハ公共ノ安寧秩序ヲ保持シ及臣民ノ幸福ヲ增

進スル爲ニ必要ナル命令ヲ發シ又ハ發セシム但シ命令ヲ以テ法律ヲ變更スルコト

ヲ得ス

第十條 天皇ハ行政各部ノ官制及文武官ノ俸給ヲ定メ及文武官ヲ任免ス但シ此ノ憲

法又ハ他ノ法律ニ特例ヲ掲ケタルモノハ各其ノ條項ニ依ル

第十一條 天皇ハ陸海軍ヲ統帥ス

第十二條 天皇ハ陸海軍ノ編制及常備兵額ヲ定ム

第十三條 天皇ハ戰ヲ宣シ和ヲ講シ及諸般ノ條約ヲ締結ス

第十四條 天皇ハ戒嚴ヲ宣告ス

戒嚴ノ要件及効力ハ法律ヲ以テ之ヲ定ム

第十五條 天皇ハ爵位勳章及其ノ他ノ榮典ヲ授與ス

第十六條 天皇ハ大赦特赦減刑及復權ヲ命ス

第十七條 攝政ヲ置クハ皇室典範ノ定ムル所ニ依ル

攝政ハ天皇ノ名ニ於テ大權ヲ行フ

## 第二章 臣民權利義務

第十八條 日本臣民タルノ要件ハ法律ノ定ムル所ニ依ル

第十九條 日本臣民ハ法律命令ノ定ムル所ノ資格ニ應シ均ク文武官ニ任セラレ及其ノ他ノ公務ニ就クコトヲ得



第二十條 日本臣民ハ法律ノ定ムル所ニ從ヒ兵役ノ義務ヲ有ス

第二十一條 日本臣民ハ法律ノ定ムル所ニ從ヒ納稅ノ義務ヲ有ス

第二十二條 日本臣民ハ法律ノ範圍内ニ於テ居住及移轉ノ自由ヲ有ス

第二十三條 日本臣民ハ法律ニ依ルニ非シテ逮捕監禁審問處罰ヲ受クルコトナシ

第二十四條 日本臣民ハ法律ニ定メタル裁判官ノ裁判ヲ受クルノ權ヲ奪ハル、コト

ナシ

第二十五條 日本臣民ハ法律ニ定メタル場合ヲ除ク外其ノ許諾ナクシテ住所ニ侵入

セラレ及搜索セララル、コトナシ

第二十六條 日本臣民ハ法律ニ定メタル場合ヲ除ク外信書ノ祕密ヲ侵サル、コトナ

シ

第二十七條 日本臣民ハ其ノ所有權ヲ侵サル、コトナシ

公益ノ爲必要ナル處分ハ法律ノ定ムル所ニ依ル

第二十八條 日本臣民ハ安寧秩序ヲ妨ケス及臣民タルノ義務ニ背カサル限ニ於テ信

教ノ自由ヲ有ス

第二十九條 日本臣民ハ法律ノ範圍内ニ於テ言論著作印行集會及結社ノ自由ヲ有ス

第三十條 日本臣民ハ相當ノ敬禮ヲ守リ別ニ定ムル所ノ規程ニ從ヒ請願ヲ爲スコト

ヲ得

第三十一條 本章ニ掲ケタル條規ハ戰時又ハ國家事變ノ場合ニ於テ天皇大權ノ施行

ヲ妨クルコトナシ

第三十二條 本章ニ掲ケタル條規ハ陸海軍ノ法令又ハ紀律ニ牴觸セサルモノニ限り

軍人ニ準行ス

### 第三章 帝國議會

第三十三條 帝國議會ハ貴族院衆議院ノ兩院ヲ以テ成立ス



第三十四條 貴族院ハ貴族院令ノ定ムル所ニ依リ皇族華族及勅任セラレタル議員ヲ以テ組織ス

第三十五條 衆議院ハ選舉法ノ定ムル所ニ依リ公選セラレタル議員ヲ以テ組織ス

第三十六條 何人モ同時ニ兩議院ノ議員タルコトヲ得ス

第三十七條 凡テ法律ハ帝國議會ノ協賛ヲ經ルヲ要ス

第三十八條 兩議院ハ政府ノ提出スル法律案ヲ議決シ及各法律案ヲ提出スルコトヲ得

第三十九條 兩議院ノ一ニ於テ否決シタル法律案ハ同會期中ニ於テ再ヒ提出スルコトヲ得ス

第四十條 兩議院ハ法律又ハ其ノ他ノ事件ニ付各其ノ意見ヲ政府ニ建議スルコトヲ得但シ其ノ採納ヲ得サルモノハ同會期中ニ於テ再ヒ建議スルコトヲ得ス

第四十一條 帝國議會ハ每年之ヲ召集ス

第四十二條 帝國議會ハ三箇月ヲ以テ會期トス必要アル場合ニ於テハ勅命ヲ以テ之

ヲ延長スルコトアルヘシ

第四十三條 臨時緊急ノ必要アル場合ニ於テ常會ノ外臨時會ヲ召集スヘシ  
臨時會ノ會期ヲ定ムルハ勅命ニ依ル

第四十四條 帝國議會ノ開會閉會會期ノ延長及停會ハ兩院同時ニ之ヲ行フヘシ  
衆議院解散ヲ命セラレタルトキハ貴族院ハ同時ニ停會セラルヘシ

第四十五條 衆議院解散ヲ命セラレタルトキハ勅命ヲ以テ新ニ議員ヲ選舉セシメ解散ノ日ヨリ五箇月以内ニ之ヲ召集スヘシ

第四十六條 兩議院ハ各其ノ總議員三分ノ一以上出席スルニ非サレハ議事ヲ開キ議決ヲ爲スコトヲ得ス

第四十七條 兩議院ノ議事ハ過半数ヲ以テ決ス可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル

第四十八條 兩議院ノ會議ハ公開ス但シ政府ノ要求又ハ其ノ院ノ決議ニ依リ秘密會ト爲スコトヲ得



第四十九條 兩議院ハ各々天皇ニ上奏スルコトヲ得

第五十條 兩議院ハ臣民ヨリ呈出スル請願書ヲ受クルコトヲ得

第五十一條 兩議院ハ此ノ憲法及議院法ニ掲クルモノ、外内部ノ整理ニ必要ナル諸規則ヲ定ムルコトヲ得

第五十二條 兩議院ノ議員ハ議院ニ於テ發言シタル意見及表決ニ付院外ニ於テ責ヲ負フコトナシ但シ議員自ラ其ノ言論ヲ演說刊行筆記又ハ其ノ他ノ方法ヲ以テ公布シタルトキハ一般ノ法律ニ依リ處分セラルヘシ

第五十三條 兩議院ノ議員ハ現行犯罪又ハ内亂外患ニ關ル罪ヲ除ク外會期中其ノ院ノ許諾ナクシテ逮捕セラル、コトナシ

第五十四條 國務大臣及政府委員ハ何時タリトモ各議院ニ出席シ及發言スルコトヲ得

#### 第四章 國務大臣及樞密顧問

第五十五條 國務各大臣ハ天皇ヲ輔弼シ其ノ責ニ任ス

凡テ法律勅令其ノ他國務ニ關ル詔勅ハ國務大臣ノ副署ヲ要ス

第五十六條 樞密顧問ハ樞密院官制ノ定ムル所ニ依リ天皇ノ諮詢ニ應ヘ重要ノ國務ヲ審議ス

#### 第五章 司法

第五十七條 司法權ハ天皇ノ名ニ於テ法律ニ依リ裁判所之ヲ行フ  
裁判所ノ構成ハ法律ヲ以テ之ヲ定ム

第五十八條 裁判官ハ法律ニ定メタル資格ヲ具フル者ヲ以テ之ニ任ス



裁判官ハ刑法ノ宣告又ハ懲戒ノ處分ニ由ルノ外其ノ職ヲ免セラル、コトナシ  
懲戒ノ條規ハ法律ヲ以テ之ヲ定ム

第五十九條 裁判ノ對審判決ハ之ヲ公開ス但シ安寧秩序又ハ風俗ヲ害スルノ虞アル  
トキハ法律ニ依リ又ハ裁判所ノ決議ヲ以テ對審ノ公開ヲ停ムルコトヲ得

第六十條 特別裁判所ノ管轄ニ屬スヘキモノハ別ニ法律ヲ以テ之ヲ定ム

第六十一條 行政官廳ノ違法處分ニ由リ權利ヲ傷害セラレタリトスルノ訴訟ニシテ  
別ニ法律ヲ定メタル行政裁判所ノ裁判ニ屬スヘキモノハ司法裁判所ニ於テ受理ス  
ルノ限ニ在ラス

### 第六章 會計

第六十二條 新ニ租稅ヲ課シ及稅率ヲ變更スルハ法律ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

但シ報償ニ屬スル行政上ノ手数料及其ノ他ノ收納金ハ前項ノ限ニ在ラス

國債ヲ起シ及豫算ニ定メタルモノヲ除ク外國庫ノ負擔トナルヘキ契約ヲ爲スハ帝  
國議會ノ協贊ヲ經ヘシ

第六十三條 現行ノ租稅ハ更ニ法律ヲ以テ之ヲ改メサル限ハ舊ニ依リ之ヲ徵收ス

第六十四條 國家ノ歲出歲入ハ毎年豫算ヲ以テ帝國議會ノ協贊ヲ經ヘシ

豫算ノ款項ニ超過シ又ハ豫算ノ外ニ生シタル支出アルトキハ後日帝國議會ノ承諾  
ヲ求ムルヲ要ス

第六十五條 豫算ハ前ニ衆議院ニ提出スヘシ

第六十六條 皇室經費ハ現在ノ定額ニ依リ毎年國庫ヨリ之ヲ支出シ將來増額ヲ要ス  
ル場合ヲ除ク外帝國議會ノ協贊ヲ要セス

第六十七條 憲法上ノ大權ニ基ツケル既定ノ歲出及法律ノ結果ニ由リ又ハ法律上政  
府ノ義務ニ屬スル歲出ハ政府ノ同意ナクシテ帝國議會之ヲ廢除シ又ハ削減スルコ  
トヲ得ス



第六十八條 特別ノ須要ニ因リ政府ハ豫メ年限ヲ定メ繼續費トシテ帝國議會ノ協贊ヲ求ムルコトヲ得

第六十九條 避クヘカラサル豫算ノ不足ヲ補フ爲ニ又ハ豫算ノ外ニ生シタル必要ノ費用ニ充ツル爲ニ豫備費ヲ設クヘシ

第七十條 公共ノ安全ヲ保持スル爲緊急ノ需用アル場合ニ於テ内外ノ情形ニ因リ政府ハ帝國議會ヲ召集スルコト能ハサルトキハ勅令ニ依リ財政上必要ノ處分ヲ爲スコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ次ノ會期ニ於テ帝國議會ニ提出シ其ノ承諾ヲ求ムルヲ要ス

第七十一條 帝國議會ニ於テ豫算ヲ議定セス又ハ豫算成立ニ至ラサルトキハ政府ハ前年度ノ豫算ヲ施行スヘシ

第七十二條 國家ノ歳出歳入ノ決算ハ會計検査院之ヲ検査確定シ政府ハ其ノ検査報告ト俱ニ之ヲ帝國議會ニ提出スヘシ

會計検査院ノ組織及職權ハ法律ヲ以テ之ヲ定ム

## 第七章 補則

第七十三條 將來此ノ憲法ノ條項ヲ改正スルノ必要アルトキハ勅命ヲ以テ議案ヲ帝國議會ノ議ニ付スヘシ

此ノ場合ニ於テ兩議院ハ各其ノ總員三分ノ二以上出席スルニ非サレハ議事ヲ開クコトヲ得ス出席議員三分ノ二以上ノ多數ヲ得ルニ非サレハ改正ノ議決ヲ爲スコトヲ得ス

第七十四條 皇室典範ノ改正ハ帝國議會ノ議ヲ經ルヲ要セス

皇室典範ヲ以テ此ノ憲法ノ條規ヲ變更スルコトヲ得ス

第七十五條 憲法及皇室典範ハ攝政ヲ置クノ間之ヲ變更スルコトヲ得ス

第七十六條 法律規則命令又ハ何等ノ名稱ヲ用キタルニ拘ラス此ノ憲法ニ矛盾セサ



ル現行ノ法令ハ總テ遵由ノ効力ヲ有ス  
歲出上政府ノ義務ニ係ル現在ノ契約又ハ命令ハ總テ第六十七條ノ例ニ依ル

## 議院法

(明治二十二年法律第二號、改正三十二年第百號、三十九年第四十九號、大正五年第四十號、九年第八號)

### 第一章 帝國議會ノ召集成立及開會

- 第一條 帝國議會召集ノ勅諭ハ集會ノ期日ヲ定メ少クトモ四十日前ニ之ヲ發布スヘシ
- 第二條 議員ハ召集ノ勅諭ニ指定シタル期日ニ於テ各議院ノ會堂ニ集會スヘシ
- 第三條 衆議院ノ議長副議長ハ其ノ院ニ於テ各三名ノ候補者ヲ選舉セシメ其ノ中ヨリ之ヲ勅任スヘシ
- 議長副議長ノ勅任セララル、マテハ書記官長議長ノ職務ヲ行フヘシ
- 第四條 各議院ハ抽籤法ニ依リ總議員ヲ數部ニ分割シ每部部長一名ヲ部員中ニ於テ互選スヘシ



第五條 兩議院成立シタル後勅命ヲ以テ帝國議會開會ノ日ヲ定メ兩院議員ヲ貴族院ニ會合セシメ開院式ヲ行フヘシ

第六條 前條ノ場合ニ於テ貴族院議長ハ議長ノ職務ヲ行フヘシ

### 第二章 議長書記官及經費

第七條 各議院ノ議長副議長ハ各一員トス

第八條 衆議院ノ議長副議長ノ任期ハ議員ノ任期ニ依ル

第九條 衆議院ノ議長副議長辭職又ハノ其他ノ事故ニ由リ闕位トナリタルトキハ繼任者ノ任期ハ仍前任者ノ任期ニ依ル

第十條 各議院ノ議長ハ其ノ議院ノ秩序ヲ保持シ議事ヲ整理シ院外ニ對シ議院ヲ代表ス

第十一條 議長ハ議會閉會ノ間ニ於テ仍其ノ議院ノ事務ヲ指揮ス

第十二條 議長ハ常任委員會及特別委員會ニ臨席シ發言スルコトヲ得但シ表決ノ數ニ預カラス

第十三條 各議院ニ於テ議長故障アルトキハ副議長之ヲ代理ス

第十四條 各議院ニ於テ議長副議長俱ニ故障アルトキハ假議長ヲ選舉シ議長ノ職務ヲ行ハシムヘシ

第十五條 各議院ノ議長副議長ハ任期滿限ニ達スルモ後任者ノ勅任セララル、マテハ仍其ノ職務ヲ繼續スヘシ

第十六條 各議院ニ書記官長一人書記官數人ヲ置ク

書記官長ハ勅任トシ書記官ハ奏任トス

第十七條 書記官長ハ議長ノ指揮ニ依リ書記官ノ事務ヲ提理シ公文ニ署名ス

書記官ハ議事録及其ノ他ノ文書案ヲ作り事務ヲ掌理ス

書記官ノ外他ノ必要ナル職員中判任官以下ハ書記官長之ヲ任ス(大正五年法律第四十



號改正)

第十八條 兩議院ノ經費ハ國庫ヨリ之ヲ支出ス

一八

### 第三章 議長副議長及議員歳費

第十九條 各議院ノ議長ハ歳費トシテ七千五百圓副議長ハ四千五百圓貴族院ノ被選及勅任議員及衆議院ノ議員ハ三千圓ヲ受ケ別ニ定ムル所ノ規則ニ從ヒ旅費ヲ受ク但シ召集ニ應セサル者ハ歳費ヲ受クルコトヲ得ス(明治三十二年法律第百號、大正九年法律第第八號改正)

議長副議長及議員ハ歳費ヲ辭スルコトヲ得(明治三十二年法律第百號改正)  
官吏ニシテ議員タル者ハ歳費ヲ受クルコトヲ得ス

第二十五條ノ場合ニ於テハ第一項歳費ノ外議院ノ定ムル所ニ依リ一日五圓ヨリ多

カラサル手當ヲ受ク

### 第四章 委員

第二十條 各議院ノ委員ハ全院委員常任委員及特別委員ノ三類トス

全院委員ハ議院ノ全員ヲ以テ委員ト爲スモノトス

常任委員ハ事務ノ必要ニ依リ之ヲ數科ニ分割シ負擔ノ事件ヲ審査スル爲ニ各部ニ於テ同數ノ委員ヲ總議員中ヨリ選舉シ一會期中其ノ任ニ在ルモノトス

特別委員ハ一事件ヲ審査スル爲ニ議院ノ選舉ヲ以テ特ニ付託ヲ受クルモノトス

第二十一條 全院委員長ハ一會期コトニ開會ノ始ニ於テ之ヲ選舉ス

常任委員長及特別委員長ハ各委員會ニ於テ之ヲ互選ス

第二十二條 全院委員會ハ議員三分ノ一以上常任委員會及特別委員會ハ其ノ委員半



數以上出席スルニ非サレハ議事ヲ開キ議決ヲ爲スコトヲ得ス

第二十三條 常任委員會及特別委員會ハ議員ノ外傍聽ヲ禁ス但シ委員會ノ決議ニ由リ議員ノ傍聽ヲ禁スルコトヲ得

第二十四條 各委員長ハ委員會ノ經過及結果ヲ議院ニ報告スヘシ

第二十五條 各議院ハ政府ノ要求ニ依リ又ハ其ノ同意ヲ經テ議會閉會ノ間委員ヲシテ議案ノ審査ヲ繼續セシムルコトヲ得

## 第五章 會議

第二十六條 各議院ノ議長ハ議事日程ヲ定メテ之ヲ議院ニ報告ス

議事日程ハ政府ヨリ提出シタル議案ヲ先ニスヘシ但シ他ノ議事緊急ノ場合ニ於テ政府ノ同意ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラス

第二十七條 法律ノ議案ハ三讀會ヲ經テ之ヲ議決スヘシ但シ政府ノ要求若ハ議員十人以上ノ要求ニ由リ議院ニ於テ出席議員三分ノ二以上ノ多數ヲ以テ可決シタルトキハ三讀會ノ順序ヲ省略スルコトヲ得

第二十八條 政府ヨリ提出シタル議案ハ委員ノ審査ヲ經スシテ之ヲ議決スルコトヲ得ス但シ緊急ノ場合ニ於テ政府ノ要求ニ由ルモノハ此ノ限ニ在ラス

第二十九條 凡テ議案ヲ發議シ及議院ノ會議ニ於テ議案ニ對シ修正ノ動議ヲ發スルモノハ二十人以上ノ贊成アルニ非サレハ議題ト爲スコトヲ得ス

第三十條 政府ハ何時タリトモ既ニ提出シタル議案ヲ修正シ又ハ撤回スルコトヲ得  
第三十一條 凡テ議案ハ最後ニ議決シタル議院ノ議長ヨリ國務大臣ヲ經由シテ之ヲ奏上スヘシ

但シ兩議院ノ一ニ於テ提出シタル議案ニシテ他ノ議院ニ於テ否決シタルトキハ第五十四條第二項ノ規定ニ依ル

第三十二條 兩議院ノ議決ヲ經テ奏上シタル議案ニシテ裁可セラル、モノハ次ノ會



期マテニ公布セララルヘシ

## 第六章 停會閉會

第三十三條 政府ハ何時タリトモ十五日以内ニ於テ議院ノ停會ヲ命スルコトヲ得  
議院停會ノ後再ヒ開會シタルトキハ前會ノ議事ヲ繼續スヘシ

第三十四條 衆議院ノ解散ニ依リ貴族院ニ停會ヲ命シタル場合ニ於テハ前條第二項  
ノ例ニ依ラス

第三十五條 帝國議會閉會ノ場合ニ於テ議案建議請願ノ議決ニ至ラサルモノハ後會  
ニ繼續セス但シ第二十五條ノ場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

第三十六條 閉會ハ勅命ニ由リ兩議院合會ニ於テ之ヲ舉行スヘシ

## 第七章 秘密會議

第三十七條 各議院ノ會議ハ左ノ場合ニ於テ公開ヲ停ムルコトヲ得

- 一 議長又ハ議員十人以上ノ發議ニ由リ議院之ヲ可決シタルトキ
- 二 政府ヨリ要求ヲ受ケタルトキ

第三十八條 議長又ハ議員十人以上ヨリ秘密會議ヲ發議シタルトキハ議長ハ直ニ傍  
聽人ヲ退去セシメ討論ヲ用キスシテ可否ノ決ヲ取ルヘシ

第三十九條 秘密會議ハ刊行スルコトヲ許サス

## 第八章 豫算案ノ議定



第四十條 政府ヨリ豫算案ヲ衆議院ニ提出シタルトキハ豫算委員ハ其ノ院ニ於テ受  
取リタル日ヨリ二十一日以内ニ審査ヲ終リ議院ニ報告スヘシ(明治三十九年法律第四  
十九號改正)

第四十一條 豫算案ニ就キ議院ノ會議ニ於テ修正ノ動議ヲ發スルモノハ三十人以上  
ノ贊成アルニ非サレハ議題ト爲スコトヲ得ス

### 第九章 國務大臣及政府委員

第四十二條 國務大臣及政府委員ノ發言ハ何時タリトモ之ヲ許スヘシ但シ之カ爲ニ  
議員ノ演說ヲ中止セシムルコトヲ得ス

第四十三條 議院ニ於テ議案ヲ委員ニ付シタルトキハ國務大臣及政府委員ハ何時タ  
リトモ委員會ニ出席シ意見ヲ述フルコトヲ得

第四十四條 委員會ハ議長ヲ經由シテ政府委員ノ説明ヲ求ムルコトヲ得

第四十五條 國務大臣及政府委員ハ議員タル者ヲ除ク外議院ノ會議ニ於テ表決ノ數  
ニ預カラス

第四十六條 常任委員會又ハ特別委員會ヲ開クトキハ每會委員長ヨリ其ノ主任ノ國  
務大臣及政府委員ニ報知スヘシ

第四十七條 議事日程及議事ニ關ル報告ハ議員ニ分配スルト同時ニ之ヲ國務大臣及  
政府委員ニ送付スヘシ

### 第十章 質問

第四十八條 兩議院ノ議員政府ニ對シ質問ヲ爲サムトスルトキハ三十人以上ノ贊成  
者アルヲ要ス



質問ハ簡明ナル主意書ヲ作り賛成者ト共ニ連署シテ之ヲ議長ニ提出スヘシ  
 第四十九條 質問主意書ハ議長之ヲ政府ニ轉送シ國務大臣ハ直ニ答辯ヲ爲シ又ハ答  
 辯スヘキ期日ヲ定メ若答辯ヲ爲サ、ルトキハ其ノ理由ヲ示明スヘシ  
 第五十條 國務大臣ノ答辯ヲ得又ハ答辯ヲ得サルトキハ質問ノ事件ニ付議員ハ建議  
 ノ動議ヲ爲スコトヲ得

### 第十一章 上奏及建議

第五十一條 各議院上奏セムトスルトキハ文書ヲ奉呈シ又ハ議長ヲ以テ總代トシ謁  
 見ヲ請ヒ之ヲ奉呈スルコトヲ得  
 各議院ノ建議ハ文書ヲ以テ政府ニ呈出スヘシ  
 第五十二條 各議院ニ於テ上奏又ハ建議ノ動議ハ三十人以上ノ賛成アルニ非サレハ

議題ト爲スコトヲ得ス

### 第十二章 兩議院關係

第五十三條 豫算ヲ除ク外政府ノ議案ヲ付スルハ兩議院ノ内何レヲ先ニスルモ便宜  
 ニ依ル  
 第五十四條 甲議院ニ於テ政府ノ議案ヲ可決シ又ハ修正シテ議決シタルトキハ乙議  
 院ニ之ヲ移スヘシ乙議院ニ於テ甲議院ノ議決ニ同意シ又ハ否決シタルトキハ之ヲ  
 奏上スルト同時ニ甲議院ニ通知スヘシ  
 乙議院ニ於テ甲議院ノ提出シタル議案ヲ否決シタルトキハ之ヲ甲議院ニ通知スヘ  
 シ  
 第五十五條 乙議院ニ於テ甲議院ヨリ移シタル議案ニ對シ之ヲ修正シタルトキハ之



ヲ甲議院ニ回付スヘシ甲議院ニ於テ乙議院ノ修正ニ同意シタルトキハ之ヲ奏上ス  
ルト同時ニ乙議院ニ通知スヘシ若之ニ同意セサルトキハ兩院協議會ヲ開クコトヲ  
求ムヘシ

甲議院ヨリ協議會ヲ開クコトヲ求ムルトキハ乙議院ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第五十六條 兩院協議會ハ兩議院ヨリ各十人以下同數ノ委員ヲ選舉シ會同セシム委  
員ノ協議案成立スルトキハ議案ヲ政府ヨリ受取り又ハ提出シタル甲議院ニ於テ先  
ツ之ヲ議シ次ニ乙議院ニ移スヘシ

協議會ニ於テ成立シタル成案ニ對シテハ更ニ修正ノ動議ヲ爲スコトヲ許サス

第五十七條 國務大臣政府委員及各議院ノ議長ハ何時タリトモ兩院協議會ニ出席シ  
テ意見ヲ述フルコトヲ得

第五十八條 兩院協議會ハ傍聽ヲ許サス

第五十九條 兩院協議會ニ於テ可否ノ決ヲ取ルハ無名投票ヲ用キ可否同數ナルトキ  
ハ議長ノ決スル所ニ依ル

第六十條 兩院協議會ノ議長ハ兩議院協議委員ニ於テ各一員ヲ互選シ每會更代シ  
テ席ニ當ラシムヘシ其ノ初會ニ於ケル議長ハ抽籤法ヲ以テ之ヲ定ム  
第六十一條 本章ニ定ムル所ノ外兩議院交渉事務ノ規程ハ其ノ協議ニ依リ之ヲ定ム  
ヘシ

### 第十三章 請願

第六十二條 各議院ニ呈出スル人民ノ請願書ハ議員ノ紹介ニ依リ議院之ヲ受取ルヘ  
シ

第六十三條 請願書ハ各議院ニ於テ請願委員ニ付シ之ヲ審査セシム  
請願委員請願書ヲ以テ規程ニ合ハスト認ムルトキハ議長ハ紹介ノ議員ヲ經テ之ヲ  
却下スヘシ



第六十四條 請願委員ハ請願文書表ヲ作り其ノ要領ヲ録シ每週一回議院ニ報告スヘシ

請願委員特別ノ報告ニ依レル要求又ハ議員三十人以上ノ要求アルトキハ各議院ハ其ノ請願事件ヲ會議ニ付スヘシ

第六十五條 各議院ニ於テ請願ノ採擇スヘキコトヲ議決シタルトキハ意見書ヲ附シ其ノ請願書ヲ政府ニ送付シ事宜ニ依リ報告ヲ求ムルコトヲ得

第六十六條 法律ニ依リ法人ト認メラレタル者ヲ除ク外總代ノ名義ヲ以テスル請願ハ各議院之ヲ受クルコトヲ得ス

第六十七條 各議院ハ憲法ヲ變更スルノ請願ヲ受クルコトヲ得ス

第六十八條 請願書ハ總テ哀願ノ體式ヲ用ウヘシ若請願ノ名義ニ依ラス若ハ其ノ體式ニ違フモノハ各議院之ヲ受クルコトヲ得ス

第六十九條 請願書ニシテ皇室ニ對シ不敬ノ語ヲ用キ政府又ハ議院ニ對シ侮辱ノ語ヲ用キルモノハ各議院之ヲ受クルコトヲ得ス

第七十條 各議院ハ司法及行政裁判ニ干預スルノ請願ヲ受クルコトヲ得ス

第七十一條 各議院ハ各別ニ請願ヲ受ケ互ニ相干預セス

### 第十四章 議院ト人民及官廳地方議會トノ關係

第七十二條 各議院ハ人民ニ向テ告示ヲ發スルコトヲ得ス

第七十三條 各議院ハ審査ノ爲ニ人民ヲ召喚シ及議員ヲ派出スルコトヲ得ス

第七十四條 各議院ヨリ審査ノ爲ニ政府ニ向テ必要ナル報告又ハ文書ヲ求ムルトキハ政府ハ祕密ニ涉ルモノヲ除ク外其ノ求ニ應スヘシ

第七十五條 各議院ハ國務大臣及政府委員ノ外他ノ官廳及地方議會ニ向テ照會往復スルコトヲ得ス



第十五章 退職及議員資格ノ異議

第七十六條 衆議院ノ議員ニシテ貴族院議員ニ任セラレ又ハ法律ニ依リ議員タルコトヲ得サル職務ニ任セラレタルトキハ退職者トス

第七十七條 衆議院ノ議員ニシテ選舉法ニ記載シタル被選ノ資格ヲ失ヒタルトキハ退職者トス

第七十八條 衆議院ニ於テ議員ノ資格ニ付異議ヲ生シタルトキハ特ニ委員ヲ設ケ時日ヲ期シ之ヲ審査セシメ其ノ報告ヲ待テ之ヲ議決スヘシ

第七十九條 裁判所ニ於テ當選訴訟ノ裁判手續ヲ爲シタルモノハ衆議院ニ於テ同一事件ニ付審査スルコトヲ得ス

第八十條 議員其ノ資格ナキコトヲ證明セラル、ニ至ルマテハ議院ニ於テ位列及發言ノ權ヲ失ハス但シ自身ノ資格審査ニ關ル會議ニ對シテハ辯明スルコトヲ得ルモ其ノ表決ニ預カルコトヲ得ス

第十六章 請假辭職及補闕

第八十一條 各議院ノ議長ハ一週間ニ超エサル議員ノ請假ヲ許可スルコトヲ得其ノ一週間ヲ超ユルモノハ議院ニ於テ之ヲ許可ス期限ナキモノハ之ヲ許可スルコトヲ得ス

第八十二條 各議院ノ議員ハ正當ノ理由ヲ以テ議長ニ届出スシテ會議又ハ委員會ニ闕席スルコトヲ得ス

第八十三條 衆議院ハ議員ノ辭職ヲ許可スルコトヲ得

第八十四條 何等ノ事由ニ拘ラス衆議院議員ニ闕員ヲ生シタルトキハ議長ヨリ内務大臣ニ通牒シ補闕選舉ヲ求ムヘシ



### 第十七章 紀律及警察

第八十五條 各議院開會中其ノ紀律ヲ保持セムカ爲内部警察ノ權ハ此ノ法律及各議院ニ於テ定ムル所ノ規則ニ從ヒ議長之ヲ施行ス

第八十六條 各議院ニ於テ要スル所ノ警察官吏ハ政府之ヲ派出シ議長ノ指揮ヲ受ケシム

第八十七條 會議中議員此ノ法律若ハ議事規則ニ違ヒ其ノ他議場ノ秩序ヲ紊ルトキハ議長ハ之ヲ警戒シ又ハ制止シ又ハ發言ヲ取消サシム命ニ從ハサルトキハ議長ハ當日ノ會議ヲ終ルマテ發言ヲ禁止シ又ハ議場ノ外ニ退去セシムルコトヲ得

第八十八條 議場騷擾ニシテ整理シ難キトキハ議長ハ當日ノ會議ヲ中止シ又ハ之ヲ閉ツルコトヲ得

第八十九條 傍聽人議場ノ妨害ヲ爲ス者アルトキハ議長ハ之ヲ退場セシメ必要ナル場合ニ於テハ之ヲ警察官廳ニ引渡サシムルコトヲ得

傍聽席騷擾ナルトキハ議長ハ總テノ傍聽人ヲ退場セシムルコトヲ得

第九十條 議場ノ秩序ヲ紊ル者アルトキハ國務大臣政府委員及議員ハ議長ノ注意ヲ喚起スルコトヲ得

第九十一條 各議院ニ於テ皇室ニ對シ不敬ノ言語論說ヲ爲スコトヲ得ス

第九十二條 各議院ニ於テ無禮ノ語ヲ用キルコトヲ得ス及他人ノ身上ニ涉リ言論スルコトヲ得ス

第九十三條 議院又ハ委員會ニ於テ誹毀侮辱ヲ被リタル議員ハ之ヲ議院ニ訴ヘテ處分ヲ求ムヘシ私ニ相報復スルコトヲ得ス

### 第十八章 懲罰

第九十四條 各議院ハ其ノ議員ニ對シ懲罰ノ權ヲ有ス



第九十五條 各議院ニ於テ懲罰事犯ヲ審査スル爲ニ懲罰委員ヲ設ク

懲罰事犯アルトキハ議長ハ先ツ之ヲ委員ニ付シ審査セシメ議院ノ議ヲ經テ之ヲ宣告ス

各委員會又ハ各部ニ於テ懲罰事犯アルトキハ委員長又ハ部長ハ之ヲ議長ニ報告シ處分ヲ求ムヘシ

第九十六條 懲罰ハ左ノ如シ

- 一 公開シタル議場ニ於テ譴責ス
- 二 公開シタル議場ニ於テ適當ノ謝辭ヲ表セシム
- 三 一定ノ時間出席ヲ停止ス
- 四 除名

衆議院ニ於テ除名ハ出席議員三分ノ二以上ノ多數ヲ以テ之ヲ決スヘシ

第九十七條 衆議院ハ除名ノ議員再選ニ當ル者ヲ拒ムコトヲ得ス

第九十八條 議員ハ二十人以上ノ賛成ヲ以テ懲罰ノ動議ヲ爲スコトヲ得

懲罰ノ動議ハ事犯アリシ後三日以内ニ之ヲ爲スヘシ

第九十九條 議員正當ノ理由ナクシテ勅諭ニ指定シタル期日後一週間内ニ召集ニ應セサルニ由リ又ハ正當ノ理由ナクシテ會議又ハ委員會ニ闕席スルニ由リ若ハ請暇ノ期限ヲ過キタルニ由リ議長ヨリ特ニ招狀ヲ發シ其ノ招狀ヲ受ケタル後一週間内ニ仍故ナク出席セサル者ハ貴族院ニ於テハ其ノ出席ヲ停止シ上奏シテ勅裁ヲ請フヘク衆議院ニ於テハ之ヲ除名スヘシ



### 衆議院規則

(明治二十三年十二月一日議決、改正二十三年十二月二日、同年同月十九日、二十四年十一月二十七日、同年十二月五日、二十八年二月五日、三十五年十二月十日、三十七年十二月一日、大正九年七月二十八日、十年十二月二十七日)

#### 第一章 成立

- 第一條 議員ハ召集ノ勅諭ニ指定シタル期日ノ午前九時衆議院ニ集會スヘシ
- 第二條 集會シタル議員ハ當選證書ト俱ニ名刺ヲ事務局ニ通スヘシ書記官ハ當選人名簿ニ各員ノ當選證書ヲ對照スヘシ
- 第三條 午前十時ニ至リ集會者總議員三分ノ一ニ充テタルトキハ議員ハ議長候補者ノ選舉ヲ行フヘシ
- 第四條 議長候補者ノ選舉ハ無名投票ヲ以テシ候補者三名ヲ連記スヘシ



第五條 議員ハ點呼ニ應シ議長席ノ前ニ設ケタル投票函ニ投票ヲ投入シ其ノ名刺ヲ名刺函ニ投入スヘシ

現在議員投票ヲ終リタルトキハ書記官長ハ投票函ノ閉鎖ヲ宣告スヘシ  
閉鎖宣告ノ後ハ投票スルコトヲ許サス

第六條 投票終リタルトキハ書記官長書記官ト俱ニ議員ノ面前ニ於テ投票ノ數ヲ計算シ投票ノ數名刺ノ數ニ超過シタルトキハ更ニ投票ヲ行ハシムヘシ

第七條 投票ノ點檢終リタルトキハ書記官長各候補者ノ得點ヲ議員ニ報告シ投票ノ過半數ヲ得タル者ヲ以テ當選人トス

第八條 投票ノ過半數ヲ得タル者ナキトキ又ハ過半數ヲ得タル者三人ニ滿タサルトキハ最多數ノ投票ヲ得タル者ニ就キ選舉スヘキ定員ノ倍數ヲ取り決選投票ヲ行ヒ多數ヲ得タル者ヲ以テ當選人トス

同數者二人以上アルトキハ年長ヲ取り同年月ナルトキハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム

第九條 當選人ニシテ當選ヲ辭スル者アルトキハ更ニ其ノ選舉ヲ行フヘシ

第十條 議長候補者ノ選舉終リタルトキハ副議長候補者ノ選舉ヲ行フヘシ

副議長候補者ノ選舉ハ議長候補者選舉ノ例ニ同シ

第十一條 議長候補者ハ副議長候補者ニ選舉セラル、コトヲ得

第十二條 選舉ニ付キ疑義ヲ生スルトキハ書記官長ハ集會シタル議員ニ諮ヒ之ヲ決スヘシ

第十三條 議長副議長ノ候補者定マリタルトキハ書記官長ハ内閣總理大臣ヲ經由シテ之ヲ奏上スヘシ

第十四條 議長副議長任命ノ翌日午前九時議員ハ議場ニ集會スヘシ  
書記官長ハ議長及副議長ヲ議院ニ紹介シ議長ヲ導キテ議長席ニ著カシムヘシ

第十五條 議員ノ議席ハ每會期ノ始ニ於テ議長之ヲ定ム但シ必要ト認ムルトキハ之ヲ變更スルコトヲ得

議席ニハ各號數ヲ付ス(明治三十七年十二月一日改正)

第十六條 議長ハ議場ニ於テ議員ノ議席ヲ報告シタル後書記官ヲシテ抽籤セシメ議



員ノ部屬ヲ定ム(明治三十七年十二月一日改正)

第十七條 議員ノ部屬ハ每會期ニ之ヲ定メ各部ニ號數ヲ付ス

總議員ヲ九部ニ配分シ均分スルコト能ハサルトキハ第一部ヨリ以下每部一員ヲ加フヘシ

議長副議長ハ部員ノ中ニ入ラス

第十八條 臨時會ニ於テハ前會ノ議席及部屬ヲ繼續スヘシ

第十九條 各部ハ年長部員ヲ以テ管理者トシ無名投票ヲ以テ部員中ヨリ部長一名ヲ互選シ其ノ最多數ヲ得タル者ヲ以テ當選人トス

最多數ヲ得タル者同數者二人以上アルトキハ年長ヲ取り同年月ナルトキハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

第二十條 部長ハ部ノ事務ヲ整理ス

第二十一條 各部ハ部員中ヨリ理事一名ヲ互選ス

理事ノ互選ハ部長互選ノ例ニ同シ

第二十二條 理事ハ部長ヲ輔ケ部長故障アルトキハ之ヲ代理スヘシ

第二十三條 議席及部屬定マリタルトキハ議長ハ議院成立ノ由ヲ政府及貴族院ニ通報スヘシ

第二十四條 議員一任期ノ第二會期以下ニ於テハ召集ノ期日午前十時ニ至リ議員總數三分ノ一ニ充テタルトキハ議席及部屬ヲ定メタル後議院成立ノ由ヲ政府及貴族院ニ通報スヘシ

## 第二章 委員

### 第一節 通則

第二十五條 委員ノ審査ハ議院ノ付託シタル事件ノ外ニ涉ルコトヲ得ス

第二十六條 委員ハ委員會ニ於テ同一事件ニ付キ幾回タリトモ發言スルコトヲ得



第二十七條 委員長ハ委員會ノ會議ヲ整理シ秩序ヲ保持ス  
第二十八條 委員會ノ議事ハ出席員ノ過半數ヲ以テ決ス可否同數ナルトキハ委員長ノ決スル所ニ依ル

第二十九條 委員長自ラ討議ニ與カラントスルトキハ委員中ヨリ代理者ヲ指名シ委員長席ニ著カシムヘシ

第二節 全院委員

第三十條 全院委員長ノ選舉ハ無名投票ヲ以テ之ヲ行ヒ過半數ヲ得タル者ヲ以テ當選人トス

過半數ヲ得タル者ナキトキハ最多數ノ投票ヲ得タル者二人ニ就キ更ニ決選投票ヲ行ヒ多數ヲ得タル者ヲ以テ當選人トス(明治二十三年十二月二日改正)

同數者二人以上アルトキハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム

選舉ニ付異議ヲ生スルトキハ議長之ヲ議院ニ諮ヒテ定ムヘシ

第三十一條 全院委員長故障アルトキハ第一部長其ノ職務ヲ行ヒ第一部長亦故障アルトキハ順次ニ第二部長以下之ヲ行フ

第三十二條 全院委員會ハ議長又ハ議員十人以上ノ發議ニ由リ討論ヲ用キス議院ノ決議ヲ以テ之ヲ開ク

第三十三條 全院委員會ヲ開クコトヲ議決シタルトキハ即時ニ開會スヘシ  
即時ニ開會セサルノ議決ヲ爲シタルトキハ議長ハ開會ノ期日ヲ定メ議事日程ニ記載スヘシ

第三十四條 全院委員會ヲ開クトキハ議長其ノ席ヲ退クヘシ  
委員長ノ席ハ書記官長ノ席ヲ以テ之ニ充ツ

第三十五條 全院委員會ニ於ケル動議ハ一人以上ノ贊成ニ依リ議題ト爲スヘシ

第三十六條 全院委員會ハ自ラ其ノ規則ヲ議決スルコトヲ得ス

第三十七條 全院委員會議事ヲ終ルトキハ委員長ハ議長ノ復席ヲ求メ其ノ結果ヲ議院ニ報告スヘシ

第三十八條 全院委員會ハ自ラ延會スルコトヲ得ス若議事終局セサルトキハ委員長



ハ議長ノ復席ヲ求メ議事ノ經過ヲ議院ニ報告スヘシ

此ノ場合ニ於テハ議長ハ更ニ開會ノ期日ヲ定メ議事日程ニ記載スヘシ

第三十九條 全院委員會ニ於テ議院法若ハ議院規則ニ違ヒ議場ノ秩序ヲ紊ル者アル

トキハ議長ハ委員長ノ請求ヲ待タス其ノ席ニ復シ委員會ヲ解クコトヲ得

第四十條 全院委員會ノ議決スルコトヲ得サル事件生スルトキハ委員長ハ議長ノ復

席ヲ求メ其ノ席ヲ退クヘシ

第四十一條 全院委員會ニ於テハ書記官書記官長ノ職務ヲ行フ

第三節 常任委員

第四十二條 議院ハ每會期ノ始ニ於テ左ニ列記スル常任委員ヲ選舉ス

- 一 豫算委員 六十三人
- 二 決算委員 四十五人
- 三 懲罰委員 二十七人
- 四 請願委員 四十五人

（明治二十四年十一月二十七日、同日改正）  
年二月五日、同三十五年十二月十日改正）

其ノ他議員ノ動議ニ依リ議院ニ於テ必要ト認ムルモノ

第四十三條 常任委員ハ各部ニ於テ無名投票ヲ以テ總議員中ヨリ選舉シ最多數ヲ得

タル者ヲ以テ當選人トス同數者二人以上アルトキハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム

各常任委員ヲ選舉スルハ議院ノ命スル所ニ依リ各部同一日時ニ於テスヘシ

第四十四條 各部ニ於テ當選人定マリタルトキハ部長ハ之ヲ議長ニ報告スヘシ

第四十五條 數部ノ選舉ニ當選シタル者ハ其ノ所屬部ノ當選人トス所屬部ノ外ニ於

テ數部ノ選舉ニ當選シタル者ハ部號ノ順序ニ從ヒ其ノ當選人トス

第四十六條 前條又ハ其ノ他ノ事由ニ因リ委員ニ闕員ヲ生シタルトキハ其ノ選舉シ

タル部ニ於テ補闕選舉ヲ行フヘシ

第四十七條 委員ニ選舉セラレタル者ハ正當ノ事由ナクシテ其ノ任ヲ辭スルコトヲ

得ス

第四十八條 委員長ハ無名投票ヲ以テ互選シ最多數ヲ得タル者ヲ以テ當選人トス

同數者二人以上アルトキハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム



第四十九條 委員會ハ無名投票ヲ以テ委員中ヨリ一名又ハ數名ノ理事ヲ互選シ委員會議錄及其ノ他文書ノ事ヲ掌ラシム委員長故障アルトキハ理事之ヲ代理スヘシ但シ會議錄及其ノ他文書ノ事ハ書記官ヲシテ之ヲ掌ラシムルコトヲ得

第五十條 議院ニ於テ委員會ノ期日ヲ指定セサルトキハ委員長之ヲ定ム

第五十一條 委員會ハ議院ノ會議時間ニ於テ之ヲ開クコトヲ得ス但シ議院ノ許可ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラス

第五十二條 委員會ハ其ノ付託ヲ受ケタル事件ニ關シ意見ヲ有スル議員アルトキハ其ノ意見ヲ聞クコトヲ得

第五十三條 議員委員會議錄及其ノ他參考文書ノ閱覽ヲ求ムル者アルトキハ審査ノ障碍ヲ生セサル限ハ之ヲ許スヘシ但シ議院ノ外ニ携帯スルコトヲ許サス

第五十四條 委員會ノ審査終ルトキハ報告書ヲ作り委員長ヨリ議長ニ提出スヘシ

委員會ノ決議ニ依リ委員長ハ口述ヲ以テ報告スルコトヲ得但シ議院ハ文書ノ報告ヲ求ムルコトヲ得

委員長ハ委員會ノ決議ヲ經テ其ノ報告ヲ他ノ委員ニ倚託スルコトヲ得

議長ニ於テ特ニ祕密ト認ムル者ノ外委員會ノ報告書ハ印刷シテ豫メ之ヲ議員ニ配付スヘシ

第五十五條 議院ハ期限ヲ定メ委員會ヲシテ審査ノ報告ヲ爲サシムルコトヲ得

第五十六條 委員會故ナク其ノ報告ヲ遅延スルトキハ議院ハ改メテ他ノ委員ヲ選任スルコトヲ得

第五十七條 委員會ニ於テ少數ヲ以テ廢棄セラレタル意見ヲ議院ニ提出セムト欲スル者出席委員三分ノ一ニ及フトキハ委員會ノ報告ト俱ニ其ノ意見書ヲ提出スルコトヲ得

第五十八條 委員會ハ委員會議錄ヲ作り出席者ノ氏名表決ノ數決議ノ要領及其ノ他重要ノ事件ヲ記載スヘシ

第五十九條 委員會議錄ハ委員長及理事之ニ署名シ事務局ニ保存スヘシ

第六十條 政府ニ返付スヘキ文書及所有主アルモノヲ除ク外委員ノ用ニ供シタル文



書ハ其ノ任務ヲ終ヘタル後之ヲ事務局ニ保存スヘシ

第六十一條 豫算委員決算委員及請願委員ハ其ノ事務ヲ捷速ナラシムル爲ニ分テ數

科ト爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ各科ニ主査ヲ互選スヘシ(明治二十八年二月五日

改正)

各科主査ハ議院ニ於テ委員長ノ報告ヲ補助スルコトヲ得

### 第四節 特別委員

第六十二條 特別委員ノ數ハ九名トス但シ付託事件ノ種類ニ由リ議院ノ決議ヲ以テ之ヲ増加スルコトヲ得

第六十三條 特別委員ハ議院ニ於テ無名投票ヲ以テ連記選舉シ最多數ヲ得タル者ヲ當選人トス同數者二人以上アルトキハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム

議院ハ特別委員ノ選舉ヲ議長又ハ各部ニ委任スルコトヲ得

第六十四條 議院ハ特別委員ニ付託シタル事件ニ連繫スル他ノ事件ヲ併セテ之ニ付託スルコトヲ得

第六十五條 議院ハ特別委員ノ報告ヲ受クルノ後更ニ其ノ事件ヲ同一委員ニ付託シ

又ハ他ノ委員ニ付託スルコトヲ得

第六十六條 第四十七條ヨリ第六十條ニ至ルマテノ規定ハ本節ニ適用ス

## 第三章 議員資格審査

第六十七條 議員他ノ議員ノ資格ニ對シ異議ヲ申立ツル者ハ異議申立書及其ノ副本

一通ヲ作り署名シテ之ヲ議長ニ差出スヘシ

議長ハ申立書ヲ資格審査委員ニ付シ及其ノ副本ヲ被告議員ニ送達シ期日ヲ定メ答辯書ヲ差出サシムヘシ

被告議員天災事變及疾病ニ因リ期日内ニ答辯書ヲ差出スコト能ハサリシコトヲ證明スルトキハ議長ハ更ニ期日ヲ定メ答辯書ヲ差出サシムルコトヲ得



第六十八條 議長被告議員ノ答辯書ヲ受取リタルトキハ資格審査委員ニ付シ時日ヲ期シテ之ヲ審査セシムヘシ

第六十九條 被告議員期日内ニ答辯書ヲ差出サ、ルトキハ資格審査委員ハ直チニ審査ノ結果ヲ報告スルコトヲ得

第七十條 資格審査委員ハ必要ト認ムルトキハ議長ヲ經由シテ申立議員及被告議員ヲ召喚訊問スルコトヲ得

第七十一條 委員其ノ審査報告ヲ議長ニ提出シタルトキハ議長之ヲ各議員ニ配付シタル後院議ニ付スヘシ

第七十二條 被告議員ハ自ラ議院ニ辯明シ又ハ他ノ議員ヲシテ代リテ辯明セシムルコトヲ得

### 第四章 開議散會及延會

第七十三條 會議ハ通常午後一時ニ始ム

第七十四條 議事日程ニ掲ケタル議事ヲ終リタルトキハ議長ハ議院ニ諮ハスシテ散會ヲ宣告ス議事未タ終ラサルモ午後六時ニ至ルトキハ議長ハ延會ヲ宣告スルコトヲ得但シ緊急ノ議事ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第七十五條 議事開始ノ時刻ニ至ルトキハ議長其ノ席ニ著キ諸般ノ通信ヲ報告シテ後ニ會議ヲ開クコトヲ宣告ス

議長開議ヲ宣告セサル間ハ何人モ議事ニ付發言スルコトヲ得ス

第七十六條 出席議員若シ定數ニ充タサルトキハ議長ハ相當ノ時間ヲ經テ之ヲ計算セシメ計算二回ニ至リ仍定數ニ充タサルトキハ延會ヲ宣告スヘシ

第七十七條 議長散會延會又ハ中止ヲ宣告シタル後ハ何人モ議事ニ付キ發言スルコトヲ得ス



## 第五章 議事日程

第七十八條 議長ハ會議ノ終ニ於テ次會ノ議事日程ヲ議院ニ報告スヘシ

第七十九條 凡テ議院ノ會議ニ付スヘキ事件及次序並開議ノ日時ハ之ヲ議事日程ニ記載スヘシ

第八十條 議事日程ハ官報ニ掲載シ及議員ニ配付スヘシ

第八十一條 議事日程ニ某議案ノ會議時刻ヲ定メタル場合ニ於テ其ノ時刻ニ至リタルトキハ議長ハ會議中ノ議事ヲ中止シテ時刻ヲ定メタル事件ノ會議ニ移ルヘシ

第八十二條 議事日程ニ記載シタル事件アルニ拘ラス他ノ緊急事件ニ付キ開議ノ動議ヲ起ス者アルトキ又ハ議長自ラ緊急事件ト認ムルトキハ討論ヲ用キスシテ議院ニ諮ヒ議事日程ヲ變更スルコトヲ得

第八十三條 議事日程ニ指定シタル日ニ於テ其ノ記載事件ノ會議ヲ開クコト能ハサルトキ又ハ會議終局ニ至ラサルトキハ議長ハ更ニ其ノ日程ヲ定ムヘシ

## 第六章 議事

### 第一節 發議及動議

第八十四條 貴族院ニ於テ既ニ會議ニ付シタル議案ト同一ナル事件ヲ議事日程ニ記載スルコトヲ得ス但シ兩議院ノ議決ヲ要セサルモノハ此ノ限ニ在ラス

第八十五條 貴族院ヨリ提出シタル議案ハ政府ヨリ提出シタル議案ニ次キ議事日程ニ記載スヘシ

第八十六條 議員法律案又ハ上奏案建議案ヲ發議トセムトスル者ハ其ノ案ヲ具ヘ理由ヲ付シ定規ノ贊成者ト共ニ連署シテ之ヲ議長ニ差出シ議長ハ印刷シテ之ヲ各議員ニ配付スヘシ

第八十六條ノ二 決議ノ動議ハ二十人以上ノ贊成者ヲ待チテ議題ト爲スヘシ(大正十



（明治二十七年十二月二十七日改正）

第八十七條 議院法及此ノ規則ニ於テ特ニ規定シタル場合ヲ除ク外凡ソ動議ハ一人以上ノ賛成者ヲ待チテ議題ト爲スヘシ

### 第二節 讀會

第八十八條 第一讀會ハ議案ヲ各議員ニ配付シタル後少クトモ二日ヲ隔テ之ヲ開クヘシ但シ緊急事件ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第八十九條 第一讀會ニ於テ議案ヲ朗讀シタル後國務大臣政府委員又ハ發議者ハ其ノ趣旨ヲ辯明スルコトヲ得

議員ハ議案ニ對シ疑義アルトキハ國務大臣政府委員又ハ發議者ニ説明ヲ求ムルコトヲ得

議長ハ便宜議案ノ朗讀ヲ省略セシムルコトヲ得

第九十條 前條ノ手續ヲ終リタルトキハ政府又ハ貴族院ヨリ提出シタル議案ハ之ヲ委員ニ付託スヘシ

議院ハ委員ノ報告ヲ待チ大體ニ付キ討論シタル後第二讀會ヲ開クヘキヤ否ヲ決スヘシ

議員ヨリ提出シタル議案ハ大體ニ付キ討論シタル後第二讀會ヲ開クヘキヤ否ヲ決スヘシ若シ委員ニ付託スルノ動議アリテ之ヲ可決シタルトキハ其ノ報告ヲ待チ第二讀會ヲ開クヘキヤ否ヲ決スヘシ

第二讀會ヲ開クヘカラスト決シタルトキハ其ノ議案ヲ廢棄シタルモノトス

第九十一條 第二讀會ハ第一讀會ヲ終リタル後少クトモ二日ヲ隔テ之ヲ開クヘシ但シ議長ハ議院ニ諮ヒ時日ヲ短縮シ又ハ第一讀會ト同日ニ之ヲ開クコトヲ得

第九十二條 第二讀會ニ於テハ議案ヲ逐條朗讀シテ之ヲ議決スヘシ

議長ハ便宜議案ノ朗讀ヲ省略セシムルコトヲ得

第九十三條 第二讀會ニ於テハ議案ニ對シ修正ノ動議ヲ提出スルコトヲ得

議員ハ讀會ノ前豫メ修正案ヲ議長ニ提出スルコトヲ得

第九十四條 委員ノ報告ニ係ル修正ハ賛成ヲ待タスシテ議題トナスヘシ



第九十五條 議長ハ逐條審議ノ順序ヲ變更シ又ハ數條ヲ連ネ又ハ一條ヲ分割シテ討論ニ付スルコトヲ得但シ議員異議ヲ提出スル者アルトキハ其ノ贊成者アルヲ待チ討論ヲ用キスシテ之ヲ決スヘシ

第九十六條 第二讀會ノ終ニ於テ議院ハ便宜ニ依リ議案ヲ委員ニ付託シテ修正決議ノ條項及字句ヲ整理セシムルコトヲ得

第九十七條 第三讀會ハ第二讀會ノ後少クトモ二日ヲ隔テ之ヲ開クヘシ但シ議長ハ議院ニ諮ヒ時日ヲ短縮シ又ハ第二讀會ト同日ニ之ヲ開クコトヲ得

第九十八條 第三讀會ニ於テハ議案全體ノ可否ヲ議決スヘシ

第九十九條 第三讀會ニ於テハ文字ヲ更正スルノ外修正ノ動議ヲ爲スコトヲ得ス但シ議案中互ニ牴觸スル事項又ハ現行法律ト牴觸スル事項アルコトヲ發見シタルトキ必要ノ修正ヲ動議スルハ此ノ限ニ在ラス

第三節 討論

第一百條 議事日程ニ記載シタル議題ニ對シテ發言セムト欲スル者ハ會議開始ノ前ニ豫

メ其ノ氏名及反對又ハ贊成ノ旨ヲ記シテ書記官ニ通告スルコトヲ得

第一百一條 書記官ハ前條通告ノ順序ニ由リ之ヲ發言表ニ記入シ議長ニ報告スヘシ議長ハ討論ヲ始ムルニ當リ發言表ニ依リ反對者ヲシテ最初ニ發言セシメ次ニ贊成者及反對者ヲ可成交互ニ指名シテ發言セシムヘシ

前項ノ指名ニ應セサル者ハ通告ノ効ヲ失フ

第一百二條 通告ヲ爲サ、ル議員ハ通告ヲ爲シタル議員總テ發言ヲ終リタル後ニアラサレハ發言ヲ求ムルコトヲ得ス

通告ヲ爲シタル甲方ノ議員未タ發言ヲ終ラスト雖乙方ノ議員既ニ發言ヲ終リタルトキハ通告ヲ爲サ、ル乙方ノ議員發言ヲ求ムルコトヲ得

第一百三條 通告ヲ爲サスシテ發言セムト欲スル者ハ起立シテ議長ト呼ヒ及自己ノ氏名若クハ番號ヲ告ケ議長ノ許可ヲ待テ發言スヘシ(明治二十三年十二月十九日改正)

第一百四條 二人以上起立シテ發言ヲ求ムルトキハ議長ハ先起立者ト認ムル者ヲ指シテ發言セシメ同時ノ起立ナルトキハ議長ノ指定スル所ニ依ル



第二百五條 延會又ハ議事中止ノトキ發言ヲ終ラサル議員ハ更ニ討論ヲ始ムルトキニ於テ前ノ發言ヲ繼續スルコトヲ得

第二百六條 凡ヘテ發言ハ演壇ニ於テ之ヲ爲スヘシ但シ極メテ簡短ナル發言及特ニ議長ノ許可ヲ得タルモノハ此ノ限ニ在ラス

第二百七條 議長ハ何時ニテモ議席ニ於テ發言スル議員ヲシテ演壇ニ登ラシムルコトヲ得

第二百八條 討論ハ議題外ニ涉ルコトヲ得ス

第二百九條 議員ハ同一ノ議題ニ付發言二回ニ及フコトヲ得ス但シ質疑應答又ハ注意ノ喚起ハ此ノ限ニ在ラス

第三百十條 委員長又ハ報告者ハ其ノ報告ノ趣旨ヲ辯明スル爲ニ數回ノ發言ヲ爲スコトヲ得

國務大臣政府委員發議者及動議者ハ議案又ハ發議動議ノ趣旨ヲ辯明スル爲ニ數回ノ發言ヲ爲スコトヲ得

第三百十一條 資格ニ付キ異議ヲ申立ラレタル議員又ハ懲罰事犯アリト告ケラレタル議員ハ辯明ノ爲ニ數回ノ發言ヲ爲スコトヲ得

第三百十二條 會議ニ於テ意見書又ハ理由書ヲ朗讀スルコトヲ得ス但シ引證若ハ報告ノ爲ニ文書ヲ朗讀スルハ此ノ限ニ在ラス

第三百十三條 議長自ラ討論ニ與カラムトスルトキハ豫メ之ヲ通告シ議席ニ著キ副議長ヲシテ議長席ニ著カシムヘシ

第三百十四條 議長討論ニ與カリタルトキハ其ノ問題ノ表決ニ至ルマテ議長席ニ復スルコトヲ得ス

第三百十五條 議長ハ討論ノ終局ヲ宣告ス

第三百十六條 發言者未タ盡キスト雖モ議員討論終局ノ動議ヲ提出シ二十人以上ノ贊成アルトキハ議長ハ議院ニ諮ヒ討論ヲ用キスシテ之ヲ決スヘシ(明治二十四年十一月二十七日改正)

第三百十七條 議院規則ノ疑義ハ議長之ヲ決ス但シ議長ハ議院ニ諮ヒ之ヲ決スルコト



ヲ得

#### 第四節 修正

第一百十八條 議案ニ對スル修正ノ動議ハ其ノ案ヲ具ヘ議長ニ提出スヘシ

第一百十九條 議員ノ提出シタル修正案ハ委員會ノ提出シタル修正案ニ先チテ決ヲ取ルヘシ

第一百二十條 同一ノ議題ニ付數個ノ修正案提出セラレタル場合ニ於テ議長ハ表決ノ順序ヲ定ム其ノ順序ハ原案ニ最モ遠キモノヨリ先ニス若議員ノ異議アルトキハ其ノ贊成者アルヲ待チ討論ヲ用キスシテ之ヲ決スヘシ

第一百二十一條 既ニ成立シタル修正ノ動議ハ議院ノ許可ヲ經ルニ非サレハ之ヲ撤回スルコトヲ得ス

一議員ノ撤回シタル動議ハ他ノ議員定規ノ贊成者ト共ニ之ヲ繼續スルコトヲ得

第一百二十二條 修正案總テ否決セラレタルトキハ原案ニ就テ決ヲ取ルヘシ

第一百二十三條 修正案原案共ニ過半數ノ贊成ヲ得サル場合ニ當リ議院ニ於テ廢棄ス

ヘカラサルモノト議決スルトキハ特ニ委員ヲシテ其案ヲ起サシメ會議ニ付スルコトヲ得

#### 第五節 表決

第一百二十四條 表決ノ際議場ニ現在セサル議員ハ表決ニ加ハルコトヲ得ス

第一百二十五條 議長表決ヲ取ラムトスルトキハ表決ニ付スヘキ問題ヲ議院ニ宣告スヘシ

議長表決ニ付スヘキ問題ヲ宣告シタル後ハ何人モ議題ニ付キ發言スルコトヲ得ス  
第一百二十六條 議長表決ヲ取ラムトスルトキハ問題ヲ可トスル者ヲ起立セシメ起立者ノ多數ヲ認定シ可否ノ結果ヲ宣告スヘシ其ノ結果疑ハシト認ムルトキ又ハ議員議長ノ宣告ニ對シ異議ヲ申立二十人以上ノ贊成アルトキハ議長ハ書記官ニ命シ議員ノ氏名若クハ番號ヲ點呼セシメ議員ハ起立シテ可否ヲ表スヘシ (明治二十三年十月十九日同二十四年十一月二十七日改正)

點呼ノ結果ニ付キ仍議員ヨリ異議ヲ申立テ三十人以上ノ贊成アルトキハ議長ハ記



名投票ヲ以テ表決ヲ爲サシムヘシ(明治二十三年十二月十九日同二十四年十一月二十七日改正)

第二百二十七條 議長必要ト認ムルトキ又ハ議員二十人以上ノ要求アルトキハ起立ノ方法ヲ用キスシテ記名若クハ無名投票ヲ以テ表決ヲ爲サシムヘシ

第二百二十八條 記名投票ヲ行フ場合ニ於テハ問題ヲ可トスル議員ハ白色票ニ問題ヲ否トスル議員ハ青色票ニ各其ノ氏名ヲ記シ投票函ニ投入スヘシ

第二百二十九條 無名投票ヲ行フ場合ニ於テハ問題ヲ可トスル議員ハ白球ヲ問題ヲ否トスル議員ハ黒球ヲ特ニ設ケタル函ニ投入シ同時ニ其ノ名刺ヲ名刺函ニ投入スヘシ若シ球數ト名刺ノ數ト同シカラサルトキハ再投票ヲ行フ

第三百十條 點呼又ハ記名若ハ無名投票ヲ行フトキハ議場ノ入口ヲ閉鎖スヘシ(明治二十三年十二月十九日改正)

第三百十一條 總テ投票ヲ終リタルトキハ議長ハ其ノ結果ヲ宣告スヘシ

第三百十二條 議員ハ自己表決ノ更正ヲ求ムルコトヲ得ス

### 第六節 豫算會議

第三百十三條 豫算委員豫算案ヲ數部ニ分割シタルトキハ每部ノ審査終ルニ從ヒ會議ヲ開クコトヲ得

豫算各部ノ議事ヲ終リタルトキハ總額ニ付キ確定ノ議決ヲ爲スヘシ

第三百十四條 豫算ノ會議ニ於テ更ニ審査ヲ必要トスル事項ヲ發見シタルトキハ其ノ事項ヲ限リ再ヒ豫算委員ニ付託シ之ヲ審査セシムルコトヲ得

## 第七章 議事錄決議錄及速記錄 (明治二十四年十二月五日改正)

### 第一節 議事錄

第三百十五條 議事錄ハ左ノ事項ヲ記載ス

一 議院成立及開會閉會ニ關スル事項及年月日時



- 二 開議延會中止及散會ノ月日時
  - 三 出席國務大臣及政府委員ノ氏名
  - 四 勅語及勅旨
  - 五 議長及委員長報告ノ件
  - 六 會議ニ付シタル議案ノ題目
  - 七 議題ト爲リタル動議及動議者ノ氏名
  - 八 決議ノ事件
  - 九 表決及可否ノ數ヲ計算シタルトキハ其ノ數
  - 十 議院ニ於テ必要ト認メタル事項
- 第三百三十六條 決議錄ハ議場ノ決議ヲ記載ス(明治二十四年十二月五日追加)
- 第三百三十七條 議員議事錄決議錄ニ記載シタル事實ニ對シテ異議アルトキハ議長ハ書記官長ヲシテ答辯セシムヘシ議員其ノ答辯ニ服セス又ハ議長ノ處置ニ對シ不服ナルトキハ議長ハ討論ヲ用キスシテ議院ノ決ヲ取ルヘシ(明治二十四年十二月五日改

正)

第三百三十八條 議事錄決議錄ハ議長又ハ當日ノ會議ヲ整理シタル副議長若ハ假議長及書記官長又ハ其ノ代理タル書記官之ニ署名スヘシ(明治二十四年十二月五日改正)

第二節 速記錄

- 第三百三十九條 議事速記錄ハ速記法ニ依リ議事ヲ記載ス
- 第四百十條 議院法第八十七條ニ依リ議長取消ヲ命シタル發言ハ速記錄ニ記載セス
- 第四百十一條 演說シタル議員ハ速記錄配付ノ當日午後七時迄ニ訂正ヲ求ムルコトヲ得但シ訂正ハ字句ニ止マリ演說ノ趣旨ヲ變更スルコトヲ得ス
- 速記錄ノ訂正ニ對シ異議ヲ申立ツル者アルトキハ議長ハ贊成者アルヲ待チ討論ヲ用キスシテ議院ノ決ヲ取ルヘシ



### 第八章 質問

第四百十二條 議員政府ニ對スル質問ニ付國務大臣ノ答辯其ノ要領ヲ得サルトキハ  
議場ニ出席ヲ求メ更ニ精細ノ質問ヲ爲スコトヲ得

第四百十三條 質問ニ對スル答辯若ハ答辯ヲ爲サ、ル理由ニ付動議ヲ提出スルモノ  
アリ三十人以上ノ賛成アルトキハ之ヲ議題ト爲スコトヲ得

### 第九章 上奏建議及議案ノ奏上

第四百十四條 議院上奏シ又ハ勅諭ニ對シ奉答ノ敬禮ヲ表セムトスルトキハ議長ハ  
宮内大臣ニ依リ謁見ヲ乞ヒ勅許ヲ經テ後參内スヘシ

第四百十五條 議院ノ建議書ハ議長ヨリ内閣總理大臣ニ差出スヘシ

第四百十六條 政府又ハ貴族院ヨリ提出シタル議案ヲ可決シタルトキハ左ノ言辭ヲ  
用キ内閣總理大臣ヲ經由シテ奏上スヘシ

衆議院ハ兩院ノ議ヲ經タル某案ノ裁可ヲ奉請ス

第四百十七條 政府ヨリ提出シタル議案ヲ否決シタルトキハ左ノ言辭ヲ用キ内閣總  
理大臣ヲ經由シテ奏上スヘシ

衆議院ハ某案ニ付テ更ニ廟議ヲ盡サレムコトヲ奉請ス

### 第十章 請願

第四百十八條 議院ハ請願者ノ住所身分職業年齢ヲ記シ各自署名捺印シタル請願書  
ニ非サレハ受理セス請願者自ラ署名スルコト能ハス他人ヲシテ代署セシムルトキ  
ハ代署シタル人其ノ由ヲ付記シ之ニ署名捺印スヘシ



第四百四十九條 法人ノ請願書ハ代表者之ニ署名シ法人ノ印章ヲ捺スヘシ  
第五百十條 請願書ハ普通ノ邦文ヲ用フヘシ若シ外國語ヲ用キサルヲ得サルトキハ之ニ註解ヲ附スヘシ

第五百十一條 請願ヲ紹介スル議員ハ請願書ノ表紙ニ紹介議員某ト書スヘシ

第五百十二條 請願委員ハ請願提出ノ順序ニ依リ之ヲ審査スヘシ

第五百十三條 議員簡短ナル説明書ヲ以テ一ノ請願ニ對シ至急ノ審査ヲ議院ニ請求スルトキハ議長ハ討論ヲ用キスシテ議院ノ決ヲ取り時日ヲ限り請願委員ニ付託ス

ヘシ

第五百十四條 請願文書表ニハ請願ノ趣旨提出ノ年月日請願者ノ住所身分職業氏名紹介議員ノ氏名ヲ記スヘシ

請願者數名アルトキハ請願者某及外幾名ト記スヘシ

第五百十五條 請願文書表ハ議長之ヲ印刷セシメテ毎週一回議員ニ配付スヘシ

請願書ハ議院ノ決議ニ依ルニアラサレハ印刷配付セス

第五百十六條 請願委員ハ審査ノ結果ニ從ヒ左ノ區別ヲ爲シ其ノ大要ヲ記シ議院ニ報告スヘシ

一 議院ノ會議ニ付スヘシトスルモノ

二 議院ノ會議ニ付スルヲ要セストスルモノ

第五百十七條 請願委員ハ議院ノ會議ニ付スヘシトスルノ請願ニ付テハ特別ノ報告ヲ爲スヘシ

第五百十八條 請願委員ニ於テ議院ノ會議ニ付スルヲ要セストスルノ報告ニ對シ一週間内ニ議員ヨリ會議ニ付スルノ要求ヲ爲ス者ナキトキハ委員ノ決議ヲ以テ確定トス

第五百十九條 請願書ハ會議ニ付スルモ之ヲ朗讀セス但シ議員朗讀ヲ要求スル者アルトキハ議院ハ討論ヲ用キスシテ之ヲ決スヘシ



## 第十一章 請暇及辭職

### 第一節 請暇

第六十條 議員事故ノ爲ニ數日間議院ニ出席スルコトヲ能ハサルトキハ其ノ理由ヲ具ヘ日數ヲ定メテ豫メ請暇書ヲ差出シ許可ヲ受クヘシ公務又ハ疾病若ハ一時已ムヲ得サル事故アリテ議院ニ出席スルコトヲ得サルトキハ其ノ理由ヲ具ヘ闕席届書ヲ差出スヘシ

第六十一條 請暇ノ許可ヲ得議院所在ノ地ヲ離ル、者ハ其ノ出發及歸著ノ時ニ於テ議長ニ届出ヘシ

第六十二條 議員請暇ノ許可ヲ得タル日限ニ至リ事故ニ由リ仍議院ニ出席スルコトヲ得サルトキハ其ノ理由ヲ具ヘ日數ヲ定メテ更ニ請暇書ヲ差出シ許可ヲ受クヘシ但シ臨時事變ノ爲ニ此ノ手續ヲ爲ス能ハサルトキハ後日其ノ理由ヲ申告シ承認ヲ受クヘシ

第六十三條 請暇ノ許可ヲ得タル議員其ノ請暇ノ期限内ニ議院ニ出席スルトキハ請暇許可ノ効ヲ失フ

### 第二節 辭職

第六十四條 議員辭職セムトスルトキハ辭表ヲ議長ニ差出スヘシ

第六十五條 議長ハ辭表ヲ朗讀セシメ討論ヲ用キスシテ其ノ許否ヲ議決セシムヘシ其ノ閉會中ニ於テハ議長之ヲ處分シ次會期ノ始ニ於テ議院ニ報告スルコトヲ得

第六十六條 辭表中不敬又ハ無禮ノ文辭アリト認ムルトキハ議長ハ朗讀ヲ禁止シテ其ノ要領ヲ議院ニ報告スルコトヲ得

第六十七條 前條ノ場合ニ於テハ議長ハ其ノ辭表ヲ懲罰委員ニ付シテ審査セシムルコトヲ得



## 第十二章 警察及秩序

### 第一節 警察

第六十八條 議長ハ守衛及警察官吏ヲ指揮シテ議院内部ノ警察權ヲ施行ス

第六十九條 守衛ハ議事堂内警察官吏ハ議事堂外ノ警察ヲ爲ス但シ議長ノ特ニ命シタル場合ニ於テハ警察官吏議事堂内ノ警察ヲ行フコトアルヘシ

第七十條 院内ノ防火點燈導水煖爐及室内掃除ノ事ハ守衛之ヲ監督ス

第七十一條 議院内部ニ於テ重罪輕罪ノ現行犯人アルトキハ守衛又ハ警察官吏ハ之ヲ逮捕シテ議長ノ命令ヲ請フヘシ但シ議場ニ於テハ議長ノ命令ヲ待タスシテ逮捕スルコトヲ得ス

### 第二節 議場内ノ秩序

七十二條 議場ニ入ルモノハ羽織袴「フロックコート」又ハ「モーニングコート」ノ外總テ略服ヲ著シ又ハ異様ノ服裝ヲ爲スヘカラス但シ無地又ハ之ニ準スヘキ折襟背

廣服ノ着用ヲ妨ケス(大正九年七月二十八日改正)

七十三條 議場ニ入ルモノハ外套傘杖ノ類ヲ携帯スヘカラス帽子ヲ著スヘカラス

七十四條 議場内ニ於テ吸烟スヘカラス

七十五條 議事中心ハ參考ノ爲ニスルモノヲ除ク外新聞紙及書籍ヲ閱讀スルコトヲ得ス

七十六條 何人モ議事中贊聲否聲ヲ發シ又ハ喧噪シテ他人ノ演說及朗讀ヲ妨クルコトヲ得ス

七十七條 散會ニ際シ議員ハ議長退席ノ後ニ非サレハ退席スルコトヲ得ス

七十八條 議長號鈴ヲ鳴ラストキハ何人モ總テ沈黙スヘシ

七十九條 凡ソ秩序ノ問題ハ議長之ヲ決ス但シ議長ハ議院ニ諮ヒ之ヲ決スルコトヲ得



### 第十三章 傍聽

七六

第一百八十條 傍聽席ヲ分テ皇族席、外國交際官席、貴族院議員席、公衆席及新聞記者席トス

第一百八十一條 外國交際官ノ傍聽ヲ求ムル者アルトキハ外務省ノ照會ニ依リ書記官長ハ議長ノ指揮ヲ承ケ其ノ員數ヲ限リ傍聽券ヲ該省ニ送付スヘシ

第一百八十二條 官吏ノ傍聽ヲ求ムル者アルトキハ所屬官廳ノ照會ニ依リ書記官長ハ議長ノ指揮ヲ受ケ其ノ員數ヲ限リ傍聽券ヲ其ノ官廳ニ送付スヘシ

第一百八十三條 公衆ノ傍聽ヲ求ムル者ハ議員ノ紹介ニ依ルヘシ  
書記官長ハ議長ノ指揮ヲ受ケ豫メ公衆傍聽券ノ員數ヲ定メ之ヲ部長ニ送付シ部長ハ之ヲ部員ニ配付ス

第一百八十四條 在東京日刊新聞社ニハ一會期ニ通スル傍聽券二十五枚在地方日刊新聞社ニハ十枚ヲ交付シ各社ノ協議ヲ以テ之ヲ分配セシムヘシ

第一百八十五條 議事開始ノ後一時間ヲ經過シ仍傍聽席空位アリテ議員ノ紹介アルトキハ書記官長ハ議長ノ指揮ヲ受ケ傍聽券ヲ交付スルコトヲ得

第一百八十六條 議員傍聽人ヲ紹介スルトキハ傍聽人紹介人トモ其ノ氏名ヲ傍聽券ニ記入スヘシ

第一百八十七條 傍聽人ハ傍聽券ヲ守衛ニ示シ其ノ指示スル所ノ席ニ著クヘシ

第一百八十八條 凡ソ傍聽席ニ在ル者ハ左ノ事項ヲ遵守スヘシ

- 一 羽織若ハ袴又ハ洋服ヲ著スヘシ
- 二 帽子又ハ外套ヲ著スヘカラス
- 三 傘杖ノ類ヲ携帯スヘカラス
- 四 飲食又ハ吸烟スヘカラス
- 五 議員ノ言論ニ對シ可否ヲ表スヘカラス
- 六 喧擾ニ涉リ議事ヲ妨害スヘカラス

第一百八十九條 戎器兇器ヲ携持シタル者及酩酊シタル者ハ傍聽席ニ入ルコトヲ許サ



ス

第九十條 何等ノ事由アルモ傍聽人ハ議場ニ入ルコトヲ得ス

第九十一條 秘密會議ヲ開クノ決議アリタルトキ又ハ傍聽席騷擾ナルニ由リ總テノ傍聽人ヲ退場セシムルトキハ議長ハ守衛ヲシテ其ノ命令ヲ執行セシムヘシ

### 第十四章 懲罰

第九十二條 會議ニ於テ懲罰事犯アルトキハ議長ハ會議ヲ中止シ又ハ犯人ヲ退場セシムルコトヲ得

第九十三條 委員會ニ於テ懲罰事犯アルトキハ委員長ハ委員會ヲ中止スルコトヲ得

第九十四條 部ニ於テ懲罰事犯アルトキ部長ノ處分ハ委員長ノ例ニ同シ

第九十五條 委員長又ハ部長ニ於テ懲罰事犯ト認メサル事件ニ付テモ委員又ハ部員ハ議院法第九十八條ニ依リ懲罰ノ動議ヲ議院ニ提出スルノ權ヲ失ハス

第九十六條 議院法第九十八條第一項ノ場合ニ於テハ議長ハ討論ヲ用キスシテ議院ノ決ヲ取り之ヲ懲罰委員ニ付スヘシ

第九十七條 懲罰事犯ノ議事ハ秘密會議ヲ以テス

第九十八條 議員ハ自己ノ懲罰事犯ノ會議ニ列席スルコトヲ得ス但シ議長ノ許可ヲ經テ自ラ辯明シ又ハ他ノ議員ヲシテ代リテ辯明セシムルコトヲ得

第九十九條 懲罰委員ハ議長ヲ經由シテ本人及關係議員ヲ召喚訊問スルコトヲ得

第二百條 議長ノ制止又ハ取消ノ命ニ從ハサル者ハ議長議院法第八十七條ニ依リ之ヲ處スルノ外仍懲罰事犯トシテ懲罰委員ニ付スルコトヲ得

第二百一條 公開議場ニ於テ謝辭ヲ表セシメムトスルトキハ懲罰委員ハ謝辭ノ要領ヲ起草シ其ノ報告ト共ニ之ヲ議長ニ提出スヘシ

第二百二條 議院ノ命令ニ抵抗シ又ハ議長ヲ侮辱シタル者及同會期中譴責セララル、



コト三回ニ至リ更ニ譴責ニ當ルヘキ事犯アル者ハ出席ヲ停止スルコトヲ得

第二百三條 出席停止ハ二週間ヲ超ユルコトヲ得ス

第二百四條 出席ヲ停止セラレタル者委員ナルトキハ其ノ任ハ解ケタルモノトス

第二百五條 出席ヲ停止セラレタル者其ノ停止期限内ニ議場ニ入ルトキハ議長ハ直

ニ退去ヲ命シ其ノ命ニ從ハサルトキハ必要ノ處分ヲ爲シ更ニ懲罰委員ニ付スヘシ

第二百六條 凡ソ議院ノ騷擾ヲ醸シ又ハ議院ノ體面ヲ汚スヘキ所行ニシテ其ノ情重

キ者ハ出席ヲ停止シ又ハ除名スルコトヲ得

第二百七條 議院懲罰ヲ議決シタルトキハ議長ハ公開議場ニ於テ之ヲ宣告ス

第二百八條 議長ハ懲罰事犯ト認ムル所ノ言論ノ一部又ハ全部ヲ公布スルコトヲ禁

スルコトヲ得

議院ニ於テ懲罰事犯ナシト議決シタルトキハ議長ノ命令ハ自ラ消滅ス

### 第十五章 貴族院ニ對スル關係

第二百九條 議案ヲ貴族院ニ移ストキハ議長ハ書記官長ヲシテ之ヲ貴族院議長ニ傳達セシム

第二百十條 貴族院ヨリ議案ヲ受取リタルトキハ議長ハ之ヲ議院ニ報告スヘシ

第二百十一條 協議委員ノ選舉ハ第六十三條ノ例ニ依ル

第二百十二條 議院法第五十五條ニ依リ貴族院ヨリ回付シタル修正案ヲ議シ及協議

會ノ報告ヲ議スルニハ三讀會ヲ經ルヲ要セス

第二百十三條 協議會ニ於ケル衆議院ノ委員ハ其ノ報告委員ヲ互選スルコトヲ得

第二百十四條 協議委員ノ數協議會ノ定數及決議ノ方法並協議會議長ノ權限ハ議院

法第六十一條ニ依リ委員ヲ派シ兩院協議シテ之ヲ定ムヘシ



法律ノ制定ニ關スル請願取扱規則(明治三十九年三月二十二日衆議院議決)

第一條 請願委員會ニ於テ法律ノ制定ニ關スル請願ニシテ採擇スヘキモノト決シタルトキハ法律案ヲ具シテ報告スルコトヲ得

第二條 前條ノ法律案ハ請願委員長ヲ以テ提出者トス

投票ニ關スル規則(明治四十二年十二月二十五日衆議院議決)

選舉又ハ表決ノ爲投票ヲ行フ場合ニハ議長ハ便宜議員ヲシテ各議席ニ於テ投票ヲ爲サシムルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ議長ハ書記官ヲ議席ニ派遣シ其ノ投票ヲ受領セシム



兩院協議會規程 (明治二十四年三月二日議決)

- 第一條 甲議院ニ於テ兩院協議會ヲ開クコトヲ求ムルキトハ其件名及理由ヲ記シ文書ヲ以テ之ヲ乙議院ニ通知スヘシ
- 第二條 協議委員ノ數ハ協議會ヲ求ムル議院之ヲ定ム
- 第三條 協議會初會ノ日時ハ兩院議長ノ協議ニ依テ之ヲ定メ爾後會議ノ日時ハ協議會之ヲ定ム
- 第四條 協議會ハ協議室ニ於テ之ヲ開ク
- 第五條 協議會ハ兩院ノ委員各三分ノ二以上出席スルニアラサレハ議事ヲ開クコトヲ得ス
- 第六條 甲議院ノ出席委員乙議院ノ出席委員ヨリ多キトキハ表決ノ際抽籤ヲ以テ其超過シタル數ノ委員ヲ減除ス但議長ハ其數ニ算入セス
- 第七條 協議會ノ議長ハ會議ヲ整理シ秩序ヲ保持ス

第八條 協議會ノ議長自ラ討議ニ與ラントスルトキハ其院ノ副議長ヲシテ代テ議長席ニ著カシムヘシ

第九條 協議委員ハ協議會ニ於テ同一ノ事件ニ付幾回タリトモ發言スルコトヲ得

第十條 協議會ニ於ケル動議ハ一名以上ノ贊成ニ依リ議題トナスヘシ

第十一條 協議會ノ議事ハ出席委員ノ過半數ヲ以テ決ス

第十二條 兩院ノ協議委員ハ各副議長一名ヲ選ヒ議長故障アルトキハ之ヲ代理セシム

議長副議長共ニ故障アルトキハ其院ノ委員中ヨリ假議長ヲ選定シ議長ノ職務ヲ行ハシム

第十三條 協議會ノ議事録及議事速記録ハ各二部ヲ作り協議會ノ議長之ニ檢印スヘシ

第十四條 協議會ノ議事録及其他ノ文書ハ各院ノ書記官ヲシテ之ヲ掌ラシム

第十五條 協議會ノ議事録又ハ議事速記録ノ記事ニ對シ異議アルトキハ協議會之ヲ



決ス

第十六條 協議會ニ於テ懲罰事犯アルトキハ協議會ノ議長ハ之ヲ其委員所屬議院ノ議長ニ報告シ處分ヲ求ムヘシ

### 議院法改正ノ沿革

議院法ハ帝國憲法發布ト同時ニ明治二十二年二月法律第二號ヲ以テ公布セラレタリ而シテ第一回議會以來提出セラレタル同法改正案ハ總計二十六件ニシテ内兩院ヲ通過シタルモノ四件、否決三件、未決十一件、消滅二件、撤回一件、貴族院ニ於テ衆議院ノ送付案ヲ否決シタルモノ二件、同上未決三件ナリ今此等法律案ノ内容及其ノ議事經過ノ大要ヲ記セハ左ノ如シ

議會回次	件名	結果	提出者
第一回	議院法中改正法律案	未決	高田早苗君
同	明治二十二年法律第二號改正法律案	同	内藤利八君
第二回	議院法改正法律案	同	高田早苗君 外四名
第四回	議院法改正案	同	加藤平四郎君 外二名
第五回	議院法改正追加法律案	同	加賀美嘉兵衛君 外二名



第五回	議院法改正法律案	未決	堀部彦次郎君
第八回	議院法改正法律案	(修) 貴族院未決	高田早苗君 外一名
同	議院法改正追加法律案	消滅	西田忠之君 外三名
第十回	議院法中改正法律案	(修) 貴族院未決	高田早苗君 外三名
第十回	明治二十二年法律第二號中改正法律案	未決	南野道親君
第十三回	議院法中改正法律案	兩院通過	政府
第十四回	議院法中改正法律案	撤回	平岡浩太郎君 外四十一名
同	議院法中改正法律案	否決	平岡浩太郎君 外四十一名
第十六回	議院法中改正法律案	(修) 貴族院否決	菅野善右衛門君
第十七回	議院法中改正法律案	未決	松田正久君 外二名
第二十二回	議院法中改正法律案	兩院通過	藤金作君 外一名
第二十六回	議院法中改正法律案	否決	高木益太郎君 外一名
第二十七回	議院法中改正法律案	未決	高木益太郎君 外一名

第三十回	議院法中改正法律案	同	花井卓藏君 外一名
第三十一回	議院法中改正法律案	同	高木益太郎君 外一名
同	議院法中改正法律案	消滅	岩崎勳君 外八名
第三十六回 (別特)	議院法中改正法律案	貴族院否決	根本正君 外九名
第三十七回	議院法中改正法律案	兩院通過	政府
第四十二回	議院法中改正法律案	(可) 貴族院未決	政府
第四十三回 (別特)	議院法中改正法律案	(修) 兩院通過	政府
第四十九回 (別特)	議院法中改正法律案	否決	武藤山治君

以上ノ如ク本法ト公布以來改正案ノ提出セラルルモノ二十六回ニ及ヒシモ兩院ヲ通過シタルモノ僅ニ四回ニ過キス而シテ其ノ改正ノ目的ハ歳費ノ増額ニ關スルモノニ件豫算ノ審査期間延長ニ關スルモノ一件職員任命ニ關スルモノ一件ナリ今左ニ改正各案ノ要項ヲ摘録シ議事經過ノ大要ヲ記セム

第一回議會 議院法中改正法律案



提出者 高田 早苗君

〔本案ノ要旨〕 本案ハ議院法ノ殆ト各條ニ涉リテ改正ヲ施サムトスルモノニシテ其ノ主タルモノヲ舉クレハ左ノ如シ

- (イ) 現行法ニ依レハ衆議院ハ議長及副議長ノ候補者ヲ選舉スルノ權アルノミ依テ之ヲ改正シ議長及副議長各一名ヲ選舉シテ勅許ヲ請フノ制トナスコト(第三條)
- (ロ) 議員部屬制ヲ廢止スルコト(第四條)
- (ハ) 書記官長及書記官ハ議長ノ薦舉ニ委スルコト是レ議院ノ職員ハ議院自ラ之ヲ舉クルニ非サレハ其ノ獨立完全ナラサルノ嫌アリトノ理由ニ依ル(第十六條)
- (ニ) 議會閉會中繼續委員ヲ置クニハ政府ノ同意ヲ要シ又政府ノ要求アルトキハ必ス之ヲ設置セサルヘカラストノ規定ハ政府カ議院ニ及ホス權力ノ偏重ヲ示スノ嫌アルヲ以テ之ヲ置クト否トハ議院ノ權能ニ屬セシムルコト(第二十五條)
- (ホ) 議事日程ハ政府ノ提案ヲ先ニスヘシトノ條項ヲ削除スルコト(第二十六條第二項)

- (ヘ) 讀會ノ順序ヲ省略シテ法律案ヲ議決スルニ付議員十人以上ノ要求ニ由ルノ條件ヲ削除スルコト(第二十七條)
- (ト) 政府ノ提案ハ必ス委員ノ審査ヲ經ヘシトノ規定ハ議員ノ提案トノ間ニ輕重ノ差別ヲ爲スモノナルニ付之カ條項ヲ削除スルコト(第二十八條)
- (チ) 政府提案ノ撤回ハ議院ノ許諾ヲ要スヘキモノナルニ付之カ條項ヲ削除スルコト(第三十條)
- (リ) 會議ノ公開ヲ停ムルノ要求又ハ發議アリタルトキハ直ニ討論ヲ用キスシテ可否ノ決ヲ取り之ヲ可決シタル後ニ於テ傍聽人ヲ退去セシムルコトトナスコト(第三十八條)
- (ヌ) 豫算委員豫算案ヲ受取リタル日ヨリ十五日以内ニ其ノ審査ヲ終ル能ハサルトキハ議院ノ許諾ヲ經テ其ノ審査期限ヲ延ハスコトヲ得トナスコト(第四十條)
- (ル) 第四十一條ヲ削除シ第二十九條ニ包含セシムルコト
- (ヲ) 憲法第六十五條豫算案ヲ前ニ衆議院ニ提出スルノ趣旨ヲ敷衍シ總テ財政ニ關



スル法律案ハ先ツ衆議院ニ提出セシムルコト(第五十三條)

(ワ) 議院ハ審査ノ爲人民ヲ召喚シ又ハ議員ヲ派出スルコトヲ得トナスコト(第七十三條)

(カ) 資格審査委員ヲ常任委員トナスコト(第七十八條)

〔議事經過〕 本案ハ議會閉會ノ爲未タ議事ニ上ラスシテ終レリ

第一回議會 明治二十二年法律第二號改正法律案

提出者 内藤利八君

〔本案ノ要旨〕 現行ノ歳費ハ我國一般經濟ノ度ニ比シ多額ト認ムルヲ以テ改正減額シ以テ政費ヲ減セム爲第十九條中議長歳費ヲ三千五百圓副議長歳費ヲ千五百圓トナサムトスルニ在リ

〔議事經過〕 本案ハ議會閉會ノ爲未タ議事ニ上ラスシテ終レリ

第二回議會 議院法改正法律案

提出者 高田早苗君外四名

〔本案ノ要旨〕 大體ニ於テ前回高田早苗君ノ提案ト同シ唯新ニ加ヘタル改正條項ヲ舉クレハ

(一) 議長及副議長ノ歳費ヲ減額スルコト (二) 議決奏上シタル議案ニシテ裁可セラ

ルルモノハ三箇月以内ニ公布シ裁可セラレサルモノハ奏上ノ日ヨリ二十日以内ニ政府ヨリ其ノ旨議院ニ通知スルコト等ナリ

〔議事經過〕 明治二十四年十二月九日第一讀會ヲ開キ提出者高田早苗君其ノ趣旨ヲ辯明シ質疑應答ノ後九名ノ特別委員ニ付託シ委員會ハ之ヲ修正議決シテ報告シタルモ衆議院解散ノ爲未決ニ終レリ

第四回議會 議院法改正案

提出者 加藤平四郎君外二名



〔本案ノ要旨〕大體ニ於テ前案ト同シ

〔議事經過〕明治二十五年十二月十二日提出ノ報告アリタルノミニテ終ニ議事ニ上  
ラス

第五回議會 議院法改正追加法律案

提出者 加賀美嘉兵衛君外二名

〔本案ノ要旨〕大體ニ於テ第一回議會高田早苗君ノ提案ト同シ

〔議事經過〕明治二十六年十二月十二日第一讀會ヲ開キ提出者加賀美嘉兵衛君其ノ  
趣旨ヲ辯明シ議長指名九名ノ委員ニ付託シタルモ衆議院解散ノ爲委員會ノ審査終  
了ニ至ラス

第五回議會 議院法改正法律案

提出者 堀部彦次郎君

〔本案ノ要旨〕大體ニ於テ前案ト同シ

〔議事經過〕前案ト同一委員ニ併セ付託シタルモ委員會ニ於テ審査終了ニ至ラス

第八回議會 議院法改正法律案

提出者 高田早苗君外一名

〔本案ノ要旨〕大體ニ於テ前來高田早苗君ノ提出シタル案ト同シ唯二三異ナレル所  
アルヲ以テ今更メテ其ノ要點ヲ摘録スレハ左ノ如シ

(イ) 衆議院ノ議長及副議長ハ其ノ院ニ於テ選舉シ之カ裁可ヲ請フコト

(ロ) 書記官長及書記官ハ之ヲ書記長又ハ書記トシ議長之ヲ選任シ此等職員ノ手當

ハ議院ノ定ムル所ニ依ルコト

(ハ) 繼續委員ヲ設クルハ政府ノ同意ヲ要セサルコト

(ニ) 第二十六條第二項但書ヲ改メ議事緊急ノ場合ニハ院議ヲ以テ議員提出案ヲ政

府案ニ先チ議事ニ付シ政府ヘハ單ニ通牒スルニ止ムルコト



- (ホ) 法律案ハ政府案タルト議員案タルトヲ問ハス委員ノ審査ヲ經ルヲ原則トスルコト
  - (ヘ) 第三十三條第一項ヲ議院ニ停會ヲ命スルトキハ十五日以内トスルコト
  - (ト) 豫算案ハ豫算委員其ノ案ヲ受取リタル日ヨリ二十日以内ニ審査ヲ終リ報告スルコト又豫算案ニ對スル修正動議ヲ發スルニハ二十人以上ノ賛成者ヲ以テ足レリトスルコト
  - (チ) 質問ハ口頭ヲ以テモ之ヲ爲スコトヲ得ルコト又質問提出ノ賛成者ハ二十人以上ヲ以テ足レリトスルコト
  - (リ) 口頭質問ニ對シテハ國務大臣直ニ口頭ヲ以テ答辯スルコト
  - (ヌ) 豫算及租税ニ關スル政府案ハ先ツ衆議院ニ提出スルコト
  - (ル) 各議院ハ審査ノ爲ニ人民ヲ召喚シ及議員ヲ派出スルヲ得ルコト
- 〔議事經過〕 明治二十八年一月十一日第一讀會ヲ開キ提出者高田早苗君其ノ趣旨ヲ辯明シ質疑應答ノ後議長指名九名ノ委員ニ付託シ委員會ハ本案ニ修正ヲ加ヘ二月

十八日報告書ヲ提出シタリ其ノ修正ノ要點ハ

- (イ) 書記長及書記ハ官吏ヲ以テ之ヲ任用スルモ實際ニ於テ不便ヲ感セサルヲ以テ現行法ノ儘トス
- (ロ) 豫算案ニ對スル修正動議ハ二十人以上ノ賛成者ヲ要ストノ條項ヲ削除シ之ヲ第二十九條ニ包含セシム
- (ハ) 口頭ヲ以テ爲シタル質問ニ對シ國務大臣ハ口頭ヲ以テ直ニ答辯スヘシトノ原案ヲ改メ更ニ答辯其ノ要領ヲ得サルトキハ二十名以上ノ賛成者ト共ニ其ノ出席ヲ要求スルコトヲ得此ノ場合ニハ國務大臣ハ時日ヲ期シ出席答辯ヲ爲スヘシト修正ス
- (ニ) 豫算及租税ニ關スル法律案ハ先ツ衆議院ニ提出スヘシトノ條項ハ是レ憲法ヲ敷衍スルノ嫌アリ又實際ニ於テ此等議案ハ先ツ本院ニ提出スルノ慣例ナルヲ以テ之ヲ削除ス
- (ホ) 審査ノ爲ニ人民ヲ召喚シ又ハ議員ヲ派出スルハ弊害アリト認メ現行法ノ儘トス



(へ)資格審査委員ハ之ヲ常任委員ト爲ス  
 等ナリ二月二十三日第一讀會ノ續會ヲ開キ委員長ノ報告ノ後第二讀會ヲ開クニ決  
 シ三月二日及四日第二讀會ヲ開キ更ニ修正ヲ加ヘタリ即チ第三條議長及副議長候  
 補者ノ選舉ハ現行法ノ儘トシ又第七十三條議院ハ審査ノ爲ニ人民ヲ召喚シ及議員  
 ヲ派出スルコトヲ得ト修正シ其ノ他ハ特別委員ノ修正案ヲ可決シ三月十四日第三  
 讀會ヲ開キ第二讀會議決ノ通り可決確定シ之ヲ貴族院ニ送付シタルモ同院ニ於テ  
 未決ニ終レリ

第八回議會 議院法改正追加法律案

提出者 西田忠之君外三名

〔本案ノ要旨〕大體ニ於テ前案ト同シ

〔議事經過〕前案ト同一委員ニ併セ付託シ同一議案議決ノ結果消滅セリ

第十回議會 議院法中改正法律案

提出者 高田早苗君外三名

〔本案ノ要旨〕大體ニ於テ前回同君外一名ノ提案ニ對スル衆議院ノ修正議決案ト同  
 シ

〔議事經過〕明治三十年三月二日第一讀會ヲ開キ提出者高田早苗君其ノ趣旨ヲ辯明  
 シ議長指名九名ノ委員ニ付託ス委員會ハ二三字句ノ修正ヲ加ヘテ之ヲ可決シ同月  
 十三日第一讀會ノ續會ヲ開キ讀會ノ順序ヲ省略シテ委員會ノ修正ヲ可決確定シ之  
 ヲ貴族院ニ送付シタルモ同院ハ之ヲ議決スルニ至ラザリキ

第十回議會 明治二十二年法律第二號中改正法律案

提出者 南野道親君

〔本案ノ要旨〕歳費ヲ増額シ議長ハ四千圓副議長ハ二千五百圓議員ハ二千圓トシ歳  
 費ハ之ヲ辭スルコトヲ得ト改正セムトスルニ在リ



〔議事經過〕 本案ハ議會閉會ノ爲未タ議事ニ上ラスシテ終レリ

第十三回議會 議院法中改正法律案

提出者 政

府

〔本案ノ要旨〕 現行議員ノ歳費ハ以テ其ノ資格ヲ保ツノ資ニ供スルニ足ラストシ之ヲ増額シ議長ハ五千圓副議長ハ三千圓議員ハ二千圓トナサムトスルニ在リ

〔議事經過〕 明治三十二年三月四日第一讀會ヲ開キ直ニ議長指名九名ノ委員ニ付託ス委員會ハ之ヲ可決シ且歳費ヲ辭スルコトヲ得ト修正シ同月六日第一讀會ノ續會ヲ開キ第二三讀會ヲ開キ委員會修正ノ通り可決確定シテ之ヲ貴族院ニ送付シ同院ハ三月八日之ヲ可決奏上シ四月十九日法律第百號ヲ以テ公布セラレタリ

第十四回議會 議院法中改正法律案

提出者 平岡浩太郎君外四十一名

〔本案ノ要旨〕 議長副議長及議員ノ歳費ヲ減額シテ舊法ニ復セムトスルニ在リ  
〔議事經過〕 本案ハ未タ議事日程ニ上ラサルニ當リテ提出者之ヲ撤回ス

第十四回議會 議院法中改正法律案

提出者 平岡浩太郎君外四十一名

〔本案ノ要旨〕 前案ト同シ

〔議事經過〕 明治三十二年十二月八日第一讀會ヲ開キ賛成者工藤行幹君其ノ趣旨ヲ辯明シ討議ノ末第二讀會ヲ開カサルコトニ決ス

第十六回議會 議院法中改正法律案

提出者 菅野善右衛門君

〔本案ノ要旨〕 質問ニ關スル法規ヲ改メ國務大臣ハ質問主意書ヲ受領シタル日又ハ次ノ會議日ニ議院ニ出席シ之ニ答辯スヘシ若シ出席シ能ハサルトキハ答辯スヘキ



時日ヲ指定シ議院ニ通報スヘシ國務大臣自ラ出席スル能ハサルトキハ其ノ理由ヲ示シ文書ノ答辯ヲ爲スコトヲ得但シ答辯要領ヲ得サルトキハ出席説明ヲ要求スルコトヲ得ヲ追加セムトスルニ在リ

〔議事經過〕明治三十五年二月一日第一讀會ヲ開キ提出者菅野善右衛門君其ノ趣旨ヲ辯明シ議長指名ノ委員ニ付託ス委員會ハ字句ノ修正ヲ加ヘテ之ヲ可決シ同月十八日第一讀會ノ續會ヲ開キ第二、三讀會ヲ經テ委員會修正通り可決確定シ之ヲ貴族院ニ送付シタルニ同院ハ三月六日之ヲ否決シタリ

第十七回議會 議院法中改正法律案

提出者 松田正久君外二名

〔本案ノ要旨〕豫算審査期限十五日以内ノ現制ヲ延長シ三十日以内ト改メムトスルニ在リ

〔議事經過〕明治三十五年十二月十三日第一讀會ヲ開キ提出者大岡育造君其ノ趣旨

ヲ辯明シタル後議長指名九名ノ委員ニ付託シタルモ衆議院解散ノ爲委員會ノ報告ヲ經ルニ至ラス

第二十二回議會 議院法中改正法律案

提出者 藤金作君外一名

〔本案ノ要旨〕豫算ノ審査期限十五日以内ノ現制ヲ延長シ二十一日以内ト改メムトスルニ在リ

〔議事經過〕明治三十九年三月三日第一讀會ヲ開キ提出者藤金作君其ノ趣旨ヲ辯明シ議長指名九名ノ委員ニ付託ス委員會ハ原案ヲ可決報告シ同月十日第一讀會ノ續會ヲ開キ第二、三讀會ヲ經テ可決確定シ之ヲ貴族院ニ送付シ同院ハ三月二十四日之ヲ可決奏上シ同年五月八日法律第四九九號ヲ以テ公布セラレタリ

第二十六回議會 議院法中改正法律案



提出者 高木益太郎君外一名

〔本案ノ要旨〕改正條項ノ主ナルモノハ左ノ三點ナリ

(イ) 常任委員會及特別委員會ハ之ヲ公開スルヲ本則トシ委員會ノ決議ヲ以テ傍聴ヲ禁スルコトヲ得ト改ムルコト

(ロ) 甲議院ノ提出シタル議案乙議院ニ移リ委員ニ付託セラレタルトキ甲議院ノ發議者タル議員ハ乙議院ノ委員會ニ出席シ提案ノ趣旨ヲ辯明スルコトヲ得ルノ規定ヲ設クルコト

(ハ) 議院ハ決算審査ニ付會計検査官ノ出席ヲ要求シ其ノ意見ヲ聽クコトヲ得トノ規定ヲ設クルコト

〔議事經過〕明治四十三年三月二十七日第一讀會ヲ開キ提出者高木益太郎君其ノ趣旨ヲ辯明シ次テ討議ノ結果本案ハ第二讀會ヲ開カサルコトニ決ス

第二十七回議會 議院法中改正法律案

提出者 高木益太郎君外一名

〔本案ノ要旨〕前案ト同シ

〔議事經過〕明治四十四年二月十六日第一讀會ヲ開キ提出者ノ趣旨辯明ノ後議長指名九名ノ委員ニ付託シタルモ委員會ノ審査終了スルニ至ラザリキ

第三十回議會 議院法中改正法律案

提出者 花井卓藏君外一名

〔本案ノ要旨〕議院法第三十三條第一項議院停會ニ關スル規定ハ憲法上天皇ノ大權ヲ侵スノ嫌アルヲ以テ之ヲ削除セムトスルニ在リ

〔議事經過〕大正二年三月八日第一讀會ヲ開キ提出者花井卓藏君其ノ趣旨ヲ辯明シ質疑應答ノ後議長指名九名ノ委員ニ付託シタルモ委員會ノ審査終了スルニ至ラス

第三十一回議會 議院法中改正法律案



提出者 高木益太郎君外一名

〔本案ノ要旨〕第二十六回議會ニ同君外一名提出ノ改正案中前掲ノ(ロ)ト同シ  
〔議事經過〕大正三年三月十日第一讀會ヲ開キ提出者其ノ趣旨ヲ辯明シ質疑應答ノ  
後議長指名九名ノ委員ニ付託シタルモ委員會ノ審査終了スルニ至ラス

第三十一回議會 議院法中改正法律案

提出者 岩崎 勳君外八名

〔本案ノ要旨〕各議院ノ守衛長ヲ奏任官トシ且ツ之ヲ特別任用ノ官ト爲サムトスル  
ニ在リ

〔議事經過〕本案ハ之ヲ院議ニ付スルニ至ラス

第三十六回議會 議院法中改正法律案

提出者 根本 正君外九名

〔本案ノ要旨〕各議院ノ守衛長ヲ奏任官トシ又速記技手ノ内一名ヲ奏任官ノ技師ト  
シ共ニ之ヲ特別任用ノ官ト爲サムトスルニ在リ

〔議事經過〕大正四年五月三十一日第一讀會ヲ開キ提出者根本正君其ノ趣旨ヲ辯明  
シ次テ議長指名九名ノ委員ニ付託ス委員會ハ原案ヲ可決シ六月二日第一讀會ノ續  
會ヲ開キ讀會ヲ省略シテ原案ヲ可決確定シ之ヲ貴族院ニ送付シタルモ終ニ同院ノ  
議決ヲ經ルニ至ラス

第三十七回議會 議院法中改正法律案

提出者 政 府

〔本案ノ要旨〕議院ノ事務ヲ分掌セシムル爲書記官ノ外ニ奏任官ノ職員ヲ置クノ必  
要アルヲ以テ議院法第十七條中職員トアルヲ職員中判任官以下ト改メムトスルニ  
在リ

〔議事經過〕大正五年一月二十二日第一讀會ヲ開キ高橋政府委員ノ趣旨辯明ニ次テ



質疑應答ノ後議長指名九名ノ委員ニ付託ス委員會ハ原案ヲ可決シ同月二十九日第一讀會ノ續會ヲ開キ委員長ノ報告ニ次テ少數者意見(修正)ノ報告アリ引續キ第二讀會ヲ開キ第三讀會ヲ省略シテ原案ヲ可決確定シ之ヲ貴族院ニ送付ス同院ハ二月九日可決奏上シ五月八日法律第四十號ヲ以テ公布セラレタリ

第四十二回議會 議院法中改正法律案

提出者 政

府

〔本案ノ要旨〕 一般經濟界ノ狀況ニ鑑ミ議長副議長議員ノ歳費ヲ増加スルノ必要アリトシ議長ハ七千五百圓副議長ハ四千五百圓議員三千圓トナサムトスルニ在リ  
〔議事經過〕 大正九年二月五日第一讀會ヲ開キ原内閣總理大臣其ノ趣旨ヲ辯明シ議長指名九名ノ委員ニ付託ス委員會ハ原案ヲ可決シ同月十七日第一讀會ノ續會ヲ開キ委員長ノ報告アリ引續キ第二讀會ヲ開キ第三讀會ヲ省略シテ原案ヲ可決確定シ之ヲ貴族院ニ送附シタルモ同院ハ二月二十六日本院解散ト同時ニ停會ヲ命セラレ

議決ニ至ラサリキ

第四十三回議會 議院法中改正法律案

提出者 政

府

〔本案ノ要旨〕 第四十二回議會ト同シ  
〔議事經過〕 大正九年七月九日第一讀會ヲ開キ横田政府委員其ノ趣旨ヲ辯明シ議長指名九名ノ委員ニ付託ス委員會ハ附則中七月一日ヨリ之ヲ施行ス〔七月分ヨリ之ヲ適用ス〕下修正議決シ同月十三日第一讀會ノ續會ヲ開キ委員長ノ報告アリ引續キ第二讀會ヲ開キ第三讀會ヲ省略シテ委員會ノ修正ヲ可決確定シ之ヲ貴族院ニ送付ス同院ハ七月二十三日可決奏上シ同月二十八日法律第八號ヲ以テ公布セラレタリ

第四十九回議會 議院法中改正法律案

提出者 武藤山治君



〔本案ノ要旨〕

- 一 現行法ハ提案中ノ議案ヲ閉會中審査セシムル爲繼續委員ヲ設クルヲ得ルニ止リ狭キニ失ス依テ立法事項又ハ議院ノ職務權限ニ關スル事項ニ付キ議會閉會中ト雖モ審査セシムル爲繼續委員制度ヲ改正スルノ必要アリ
- 二 從テ繼續委員ノ手當ハ一日二十圓以上三十圓以下ノ範圍ニテ支給スルコトニ改正ノ要アリ

〔議事經過〕大正十三年七月十二日第一讀會ヲ開キ提出者武藤山治君其ノ趣旨ヲ辯明シ討議ノ末第二讀會ヲ開カサルニ決ス

衆議院規則改正ノ沿革

衆議院規則ハ第一回議會明治二十三年十二月一日議長發議ニテ各部ヨリ選舉セラレタル九名ノ起草委員ノ手ニ依リ起草セラレ同日起草委員長島田三郎君ヨリ報告ヲ爲シ全文二百十三條ヲ一括議題ト爲シ院議之ヲ可決セリ而シテ第一回議會以來提出セラレタル同規則改正案ハ總計十七件ニシテ内可決セラレタルモノ九件否決三件未決五件ナリ今此等規則改正案ノ要旨及其ノ議事ノ經過ノ大要ヲ記セハ左ノ如シ

議會回次	件名	結果	提出者
第一回	衆議院規則第三十條ニ關スル緊急動議案	修正議決	末廣重恭君
同	衆議院規則第三百三條及第二百二十六條ニ關スル緊急動議案	可決	末廣重恭君
第二回	衆議院規則改正案	可決	山田東次君
同	衆議院規則改正案	否決	立入奇一君



第二回	衆議院規則修正案	可	決	植木枝盛君
第三回 (別特)	衆議院規則追加ノ件	否	決	佐々木正藏君
同	衆議院規則追加ノ件	未	決	稻垣示君 外一名
第四回	衆議院規則修正案	否	決	川越進君 外一名
第五回	衆議院規則第一百七條修正案	未	決	中野武營君 外二名
第八回	衆議院規則改正追加案	可	決	谷澤龍藏君 外三名
同	衆議院規則修正案	未	決	末廣重恭君
第十七回	衆議院規則中修正案	可	決	松田正久君 外一名
同	衆議院規則中修正案	未	決	伊藤俊介君 外二名
第二十一回	衆議院規則中修正案	修正議決	決	大石正巳君 外九名
第二十三回	衆議院規則中修正案	未	決	田中定吉君 外四名
第四十三回 (別特)	衆議院規則中修正案	可	決	鶴澤總明君 外四名
第四十五回	衆議院規則中修正案	可	決	大岡育造君 外五名

第一回議會 衆議院規則第三十條ニ關スル緊急動議案

提出者 末廣重恭君

〔本案ノ要旨〕 本案ハ第三十條第二項ノ次ニ左ノ一項ヲ加ヘムトスルニ在リ

〔決選投票ヲナシ過半數ヲ得タル者ナキトキハ再ヒ決選投票ヲ行ヒ最大多數ヲ得ル者ヲ以テ當選人トナス〕

〔議事經過〕 明治二十三年十二月二日全院委員長ノ選舉ニ際シ緊急動議トシテ上程セラレ議員末松謙澄君ヨリ右條項追加ニ代ヘ第三條第二項ノ末文更ニ決選投票ヲ行フ「トアル」更ニ決選投票ヲ行ヒ多數ヲ得タル者ヲ以テ當選人トス「ト」ノ修正案出テ採決ノ結果修正案ノ通可決確定セリ

第一回議會 衆議院規則第三百三條及第二百二十六條ニ關スル緊急動議案

提出者 末廣重恭君



〔本案ノ要旨〕 本案ハ左ノ條項ニ付改廢ヲナサムトスルニ在リ

一 第一百三條及第二百二十六條第一項中氏名ノ下ニ若クハ番號ノ五字ヲ挿入ス

第二百二十六條 第二項及第三百十條中氏名ノ二字ヲ削ル

〔議事經過〕 明治二十三年十二月十九日ノ會議ニ於テ上程セラレ提出者末廣重恭君ヨリ趣旨辯明ノ後原案ノ通り可決確定セリ

第二回議會 衆議院規則改正案

提出者 山田東次君

〔本案ノ要旨〕 改正ノ要旨ヲ舉クレハ左ノ如シ

(イ) 豫算委員六十三人ヲ四十五人ニ懲罰委員二十七人ヲ十八人ニ改正スルコト(第四十二條)

(ロ) 討論終局ノ動議ハ二十人以上ノ贊成アルニ非サレハ成立セサルコト(第一百十六條)

(ハ) 表決ノ結果議長ノ宣告ニ對スル異議ノ申立ハ二十人以上ノ贊成及異議申立ニ依ル點呼ノ結果ニ付仍議員ヨリノ異議申立ハ三十人以上ノ贊成アルニ非サレ

ハ成立セサルコト(第二百二十六條)

〔議事經過〕 明治二十四年十一月二十七日ノ會議ニ於テ上程セラレ提出者山田東次君ヨリ趣旨辯明ノ後原案ノ通り可決確定セリ

第二回議會 衆議院規則改正案

提出者 立入奇一君

〔本案ノ要旨〕 議事ノ進捗ニ便ナラシメムカ爲メ第七十三條中「午後一時」ヲ「午前十時」ニ第七十四條中「午後六時」ヲ「四時」ニ改メムトスルニ在リ

〔議事經過〕 明治二十四年十一月三十日ノ會議ニ於テ上程セラレタルモ即決否決セラレタリ



第二回議會 衆議院規則修正案

提出者 植木枝盛君

〔本案ノ要旨〕現行衆議院規則中ニ議事録速記録ノ定メアリテ決議録ノ定メナキハ不備ナルノ理由ニ依リ第三百三十五條ノ次ニ決議録ハ議場ノ決議ヲ記載スノ一條項ヲ設ケ關係條項中ニ決議録ノ文字ヲ挿入セムトスルニ在リ  
〔議事經過〕明治二十四年十二月五日ノ會議ニ於テ上程セラレ提出者植木枝盛君ヨリ趣旨辯明ノ後原案ノ通り可決確定セリ

第三回議會 衆議院規則追加ノ件

提出者 佐々木正藏君

〔本案ノ要旨〕本案ハ第八十六條ニ左ノ一項ヲ加ヘムトスルニ在リ  
〔議院内部ノ規則ニ係ル事件ヲ除ク外法律又ハ政治上ノ關係ヲ有シ議院ノ意思ヲ

表明スル決議案ハ議院法第五十二條及本條第一項ニ依ルニ非サレハ之ヲ議決スルコトヲ得ス

〔議事經過〕明治二十五年五月二十四日ノ會議ニ於テ緊急動議トシテ上程セラレタルモ否決セラレタリ

第三回議會 衆議院規則追加ノ件

提出者 稻垣 示君 外一名

〔本案ノ要旨〕本案ハ第三百三十九條ニ左ノ一項ヲ加ヘムトスルニ在リ  
〔議事速記録ニハ議場ニ於テ爲シタル發言報告演說又ハ朗讀シタル文書ニ非サレハ之ヲ記載スルコトヲ得ス但シ議題トナリタル議案又ハ本院ニ於テ記載スヘシト議決シタルモノハ此限ニアラス〕  
〔議事經過〕明治二十五年六月九日緊急動議トシテ提出セラレタルモ院議ニ付スルニ至ラス



第四回議會 衆議院規則改正案

提出者 川越 進君 外一名

〔本案ノ要旨〕改正ノ要旨ヲ舉グレバ左ノ如シ

- (イ) 議院ノ意思ヲ表明スル決議案ハ案ヲ具ヘ理由ヲ付シ定規ノ賛成者ヲ要スル等上奏案建議案ト同一ノ手續ニ依ルヘキコト(第八十六條)
- (ロ) 上奏案及建議案モ法律案ト同シク續會ノ順序ヲ經テ審議スルノ方法ヲ設クルコト(第九十二條)

(ハ) 議員中投票採決方ニ付異議ヲ申立テ二十人以上ノ賛成者アルトキハ討論ヲ用キスシテ議院ニ諮ヒ之ヲ決スヘシトノ但書ヲ設クルコト(第二百二十七條)

(ニ) 議員ニシテ他ノ公務ノ爲漫リニ議院ノ缺席ヲ許サ、ルコト(第六十條)

〔議事經過〕明治二十五年十二月十五日ノ會議ニ於テ上程セラレタルモ否決セラレタリ

第五回議會 衆議院規則第十七條改正案

提出者 中野 武營君 外二名

〔本案ノ要旨〕本案ハ第一百七條但書以下ヲ左ノ如ク改正セムトスルニ在リ

〔但シ異議アルトキハ議院ニ諮ヒ之ヲ決スヘシ〕

〔議事經過〕明治二十六年十二月四日本案提出セラレタルモ院議ニ付スルニ至ラス

第八回議會 衆議院規則改正追加案

提出者 谷澤 龍藏君 外三名

〔本案ノ要旨〕議院ハ歳入歳出決算ノ報告ヲ受クルニ當リ之ヲ審査スル爲メ委員ヲ置クノ要アルニ依リ決算委員二十七人ヲ設ケムトスルニ在リ

〔議事經過〕明治二十八年二月五日ノ會議ニ於テ上程セラレ提出者谷澤龍藏君ヨリ趣旨辯明ノ後直ニ採決ノ結果議院之ヲ可決セリ



第八回議會 衆議院規則改正案

提出者 末廣重恭君

〔本案ノ要旨〕 本案ハ第七十八條ニ左ノ但書ヲ加ヘムトスルニ在リ

〔但シ政府又ハ議員二十人以上ノ請求アルトキハ次會以後ノ議事日程ニ掲クヘキ事件及日時ヲ豫告スルコトヲ得〕

〔議事經過〕 明治二十八年一月九日本案提出セラレタルモ院議ニ付スルニ至ラス

第十七回議會 衆議院規則中改正案

提出者 松田正久君外一名

〔本案ノ要旨〕 議員ノ員數増加セルト共ニ常任委員ノ數亦之ヲ増加スルノ必要アルニ依リ第四十二條中豫算委員四十五人ヲ六十三人ニ決算委員二十七人ヲ四十五人ニ懲罰委員十八人ヲ二十七人ニ請願委員三十六人ヲ四十五人ニ改メムトスルニ在

リ

〔議事經過〕 明治三十五年十二月十日ノ會議ニ於テ緊急動議トシテ上程セラレ提出者松田正久君ヨリ趣旨辯明ノ後直ニ採決ノ結果院議之ヲ可決セリ

第十七回議會 衆議院規則中改正案

提出者 伊藤俊介君外二名

〔本案ノ要旨〕 本案ハ第四十三條第二項ノ次ニ左ノ一項ヲ加ヘムトスルニ在リ

〔議院ハ常任委員ノ選舉ヲ議長ニ委任スルコトヲ得〕

〔議事經過〕 明治三十五年十二月十日ノ會議ニ於テ緊急動議トシテ提出セラレタルモ院議ニ付スルニ至ラス

第二十一回議會 衆議院規則中改正案

提出者 大石正巳君外九名



〔本案ノ要旨〕 本案ハ第十五條及第十六條ヲ左ノ如ク改正セムトスルニ在リ

〔議員ノ議席ハ每會期ノ始ニ於テ議長之ヲ定ム但シ必要ト認ムルトキハ何時ニテモ之ヲ變更スルコトヲ得

議席ニハ各號數ヲ付ス〔第十五條〕

〔議長ハ議場ニ於テ議員ノ議席ヲ報告シタル後書記官ヲシテ抽籤セシメ議員ノ部屬ヲ定ム〔第十六條〕

〔議事經過〕 明治三十七年十二月一日ノ會議ニ於テ提出者大岡育造君ヨリ趣旨辯明ノ後議長指名九名ノ委員ニ付託セラレ委員會ハ第十五條中但書ノ中何時ニテモノ五字ヲ削除シテ之ヲ可決シ同日委員會修正ノ通り可決確定セリ

第二十三回議會 衆議院規則中改正案

提出者 田中定吉君 外四名

〔本案ノ要旨〕 戰後膨脹セル豫算決算ノ審査上全員ヲ舉ケテ豫算委員及決算委員タ

ラシメムトスルニ在リ

〔議事經過〕 明治四十年三月二十一日ノ會議ニ上程セラレ議長指名九名ノ委員ニ付託セラレタルモ委員會ノ審査終了スルニ至ラス

第四十三回議會 衆議院規則中改正案

提出者 鵜澤總明君 外四名

〔本案ノ要旨〕 時勢ノ推移ニ伴ヒ議場内ニ於ケル服裝ノ制ヲ改ムルノ必要ヲ認メ第百七十二條ニ左ノ但書ヲ加ヘムトスルニ在リ

〔但シ無地又ハ之ニ準スヘキ折襟背廣服ノ着用ヲ妨ケス〕

〔議事經過〕 大正九年七月二十八日ノ會議ニ上程セラレ提出鵜澤總明君ヨリ趣旨辯明ノ後即時原案ノ通り可決確定セリ

第四十五回議會 衆議院規則中改正案



提出者 大岡育造君 外五名

〔本案ノ要旨〕 決議案ハ其ノ内容上奏案及建議案ト異ナルトコロナキヲ以テ他ノ議案ト均衡ヲ保タシヌムカ爲第八十六條ノ二トシテ左ノ條項ヲ設ケムトスルニ在リ

〔決議ノ動議ハ二十人以上ノ贊成者ヲ待チテ議題ト爲スヘシ〕

〔議事經過〕 大正十年十二月二十七日ノ會議ニ上程セラレ提出者大岡育造君ヨリ其ノ趣旨ヲ辯明シ採決ノ結果原案ノ通り可決確定セリ

大正十三年十一月八日印刷  
大正十三年十一月十日發行

### 衆議院事務局

東京市京橋區日吉町十番地

印刷者 渡邊爲藏

東京市京橋區日吉町十番地

印刷所 民友社

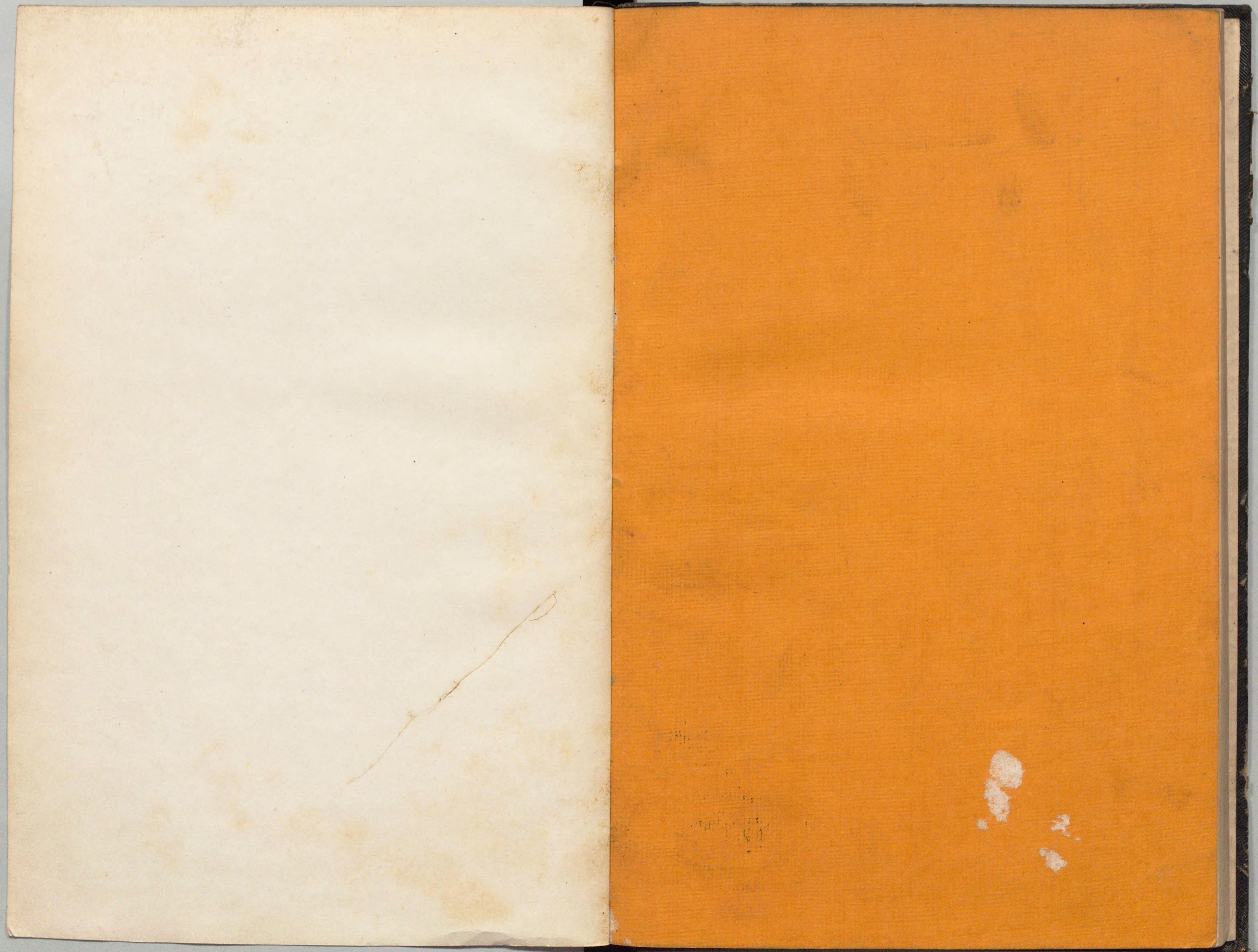






143  
75







143  
75



